

# 南国暮らしの会

2020年 創立20周年記念号



No.1835 山際 泰造氏 提供 インド北部アーグラ「タージ・マハル」



NPO法人 南国暮らしの会

令和2年1月15日

# 南国暮らしの会 (2020年 創立20周年記念号)目次

## ご挨拶

(敬称略)

新年並びに創立20周年のご挨拶	No. 1607 阿部 滋敏	1
-----------------	----------------	---

## 祝辞

フィリピン観光省	東日本代表 ニール パレストロス	2
----------	------------------	---

タイ国政府観光庁	東京事務所長 セクサン・シープライワン	2
----------	---------------------	---

マレーシア政府観光局	東京副支局長 シャハルル・アマン	3
------------	------------------	---

NPO 法人創立20周年記念に寄せて	No. 434 大野 悦子	4
--------------------	---------------	---

NPO 法人創立20周年記念に寄せて	No. 732 馬場 章介	5
--------------------	---------------	---

NPO法人創立11年日から20年目まで10間の会の活動	No. 434 大野 悦子	6
-----------------------------	---------------	---

## 創立20周年記念に寄せて：各支部から

①北海道支部	No. 1285 桂 裕章	12
--------	---------------	----

②東海支部	No. 840 岩田 彬	15
-------	--------------	----

No. 1674 神谷 宜門	17
----------------	----

③関西支部	No. 173 平山 三雄	18
-------	---------------	----

No. 501 大川 泰永	19
---------------	----

No. 1608 森川 建	20
---------------	----

④九州支部	No. 581 朝永 清寿	21
-------	---------------	----

⑤クアラランブール支部	No. 1822 酒田 充	24
-------------	---------------	----

⑥チェンマイ支部	No. 909 鈴木 通弘	25
----------	---------------	----

No. 558 伊澤 豊	27
--------------	----

⑦ダバオ支部	No. 1261 藤本 晴久	32
--------	----------------	----

⑧ハワイ支部	No. 1278 外池 一子	33
--------	----------------	----

## 会員からの投稿

①ブラジル サンパウロとリオのカーニバル	No. 877 梶野 祥司	35
----------------------	---------------	----

②モロッコの旅	No. 1763 小西 隆司	39
---------	----------------	----

20周年記念式典及び懇親会のご案内	48
-------------------	----

総務部からのお知らせ 2019年度(22期) 役員 業務分担表	49
---------------------------------	----

友好団体紹介コーナー・南国暮らしの会 支部一覧	50
-------------------------	----

編集後記	50
------	----

2020年度(令和2年度)会費納入のご案内	52
-----------------------	----

## 新年並びに創立20周年記念のご挨拶

南国暮らしの会 理事長 No.1607 阿部 滋敏

令和初の新年、明けましておめでとうございます。会員、ご家族の皆様にはお健やかに新年をお迎えのことと存じます。

「南国暮らしの会」は昨年9月30日に、東京都のNPO法人認証を受けましてから20年を迎えることが出来ました。これもひとえに会員の皆様のご理解とご支援の賜物であると、感謝に絶えません。現在、総会でご承認頂いた事業計画に沿って特別委員会を立ち上げ、記念会報の出版、記念行事の挙行、会員必携の改訂など主要実施項目6件についてワーキンググループを作り、具体的な実行計画を詰めております。また、11月22日には各支部からのご要望に基づき、第2回役員・支部長会議を開催し、役員支部間の意思疎通を図りました。創立20周年記念の行事はいまのところ5月24日通常総会の後に予定しております。詳細が決まり次第、ご案内を差し上げたいと思いますので、その節はよろしくお願い致します。

さて、昨年正月にも申し上げましたが、ロングステイフェアへの積極的な関わりなど、会員数を増やす努力はしております。しかしながら、世の趨勢で年金支給開始時期の後ろ倒し、定年延長等により新入会員は減少傾向にあります。また、創立20周年を迎え、60歳で入会された方も80歳となり、海外ロングステイを卒業、国内回帰されており、退会者の増加に繋がっています。これらのために、会としても残念ながら、大幅な規模縮小を余儀なくされています。係る事態を踏まえ、昨年度会報事業の見直しなど、過去にとられない身の丈に合った進め方をして参りましたが、紙の会報が年に1回では寂しいというお声も頂戴しております。次年度は改善に積極的な方々にも是非、委員や理事になって頂いてお力添えを頂き、会の活性化を図っていきたいと思います。

会員皆様方のお力をお借りし、先人が苦勞して築かれた組織や社会的な信用を大事にするとともに、新しい時代に合ったニーズも取り込んでこの会をより「楽しく、仲良く、情報交換ができる会」となるよう、さらに努力して行きたいと思っております。役員一同、会の存続、発展に向け、可能な限り尽力する所存ですので、会員の皆様方に於かれましても温かいご指導とご支援を頂きますようお願い申し上げます。

末筆にはなりますが、本年が会員及びご家族の皆様方にとって、お健やかで穏やかな1年になりますよう、心からお祈りいたしますとともに、創立20周年記念の行事が皆様方に満足していただけることを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。



# 祝辞 祝 創立20周年記念号

## フィリピン観光省

東日本代表 ニール バステロス



「南国暮らしの会」NPO 法人化 20 周年にフィリピン観光省を代表して、心からお祝い申し上げます。

また、日頃はセブ、ダバオ支部を中心にフィリピンのロングステイ、リタイアメント情報のご提供や積極的な交流なども行われているようで 会報誌を通しての活動報告も楽しく拝読させていただいています。

フィリピンは7,641の島々からなり、島の数だけ様々な魅力があります。日本から4時間の常夏の楽園リゾートで、豊富なトロピカルフルーツ、ホスピタリティ溢れるフレンドリーなフィリピン人などで知られ、日本からの訪問客数も昨年は63万人で毎年増加しています。

最後になりますが、御会の益々のご発展とフィリピンとの繋がりがより深まるようお願いいたします。

マブハイ

## タイ国政府観光庁

東京事務所長 セクサン・シープライワン



設立 20 周年おめでとうございます。

タイ国政府観光庁のロングステイの誘致活動において、いつもご協力いただき、感謝申し上げます。

2018 年日本人渡航者数が 163 万人、タイ人渡航者数が 113 万人人と過去最高の数に達しました。また、2019 年も共に 1-8 月には 10% 増となっており、日タイ間の渡航者が 300 万人時代もすぐそこに来ています。

ロングステイの誘致活動においては、1999 年にロングステイビザが発行されるようになり、当庁でもこの 20 年間に渡りタイで長期滞在の誘致活動に力を入れて参りました。初めは「海外で年金でいかに生活するか」、そして「第二の人生をいかに送るか」、今後は「暮らすようにいかに旅をするか」というステージに移りつつあるのではないかと思います。

御会においても、ロングステイに有益な情報提供や交流会、更には「アフターロングステイ」という問題提起や 2 都市ステイの提案などされて、日本全国で様々な活動を積極的に行われています。

東京オリンピックパラリンピックが開催される 2020 年にタイの旅行業界が 60 周年をむかえます。ぜひ御会とも一緒に誘致活動を進めていければと思います。

今後ますますのご活躍を期待しております。また、当庁へのご指導ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

# マレーシア政府観光局

東京副支局長 シャハルル・アマン

NPO 法人化 20 周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

マレーシアは温暖な気候に加え、安定した政治経済、豊かな自然やフレンドリーな国民性など、多くの魅力にあふれ、ロングステイ先人気国として多くの日本人の方からご支持頂いております。また、マレーシア政府でも長期滞在用の特別ビザを用意し、皆様のご滞在を後援しております。

マレーシア・マイ・セカンドホーム（MM2H）プログラムは、年齢に関係なく、一定の条件を満たせば最長 10 年マレーシアに滞在する事が可能なビザで、ビザを取得してもマレーシアに住む必要は無く、冬や花粉の時期のみの滞在、お子様の教育目的での取得をされる方などもいらっしゃいます。

2002 年に現在の「マレーシア・マイ・セカンドホーム（MM2H）」ビザの形になり 17 年が経ちますが、現在は 4,000 名を超える日本人の方々がこのビザを取得してマレーシアでの滞在を楽しんでいらっしゃいます。

来年 2020 年はマレーシア観光年で、国内でも様々なイベントを開催し皆様をお迎えいたします。この機会にマレーシアにお越しいただき、マレーシアでの滞在をお楽しみください。

「ジュンパ・デイ・マレーシア（マレーシアでお会いしましょう）」



## NPO法人創立20周年記念に寄せて

南国暮らしの会 相談役 No.434 大野 悦子

NPO 法人創立 20 周年記念を迎え、おめでとうございます。

会員の皆様のご理解とご協力のもと、20 周年を迎えることが出来まして感謝致しております。有難うございます。

ロングステイ財団の季刊誌で、南国暮らしの会の存在を知り、平成 13 年の 10 月に入会して、その月に、「情報交換会」が開催されることがわかり、参加させて頂いた折、会員の皆さんがフレンドリーで、暖かく迎え入れて下さって楽しかったことを覚えております。

そして、すぐ翌月から、「サロン会」が始まり、熱心に通うようになりました。

最初は、品川駅そばの新高輪プリンスホテル内の JAL のラウンジで開催されていましたが、回を重ねるたびに参加者が増え、平成 14 年 8 月からは、現在、使用している「東京都南部労政会館」で、開催されるようになりました。

平成 15 年の 10 月から理事として会の活動のお手伝いをさせて頂くようになりまして、翌年には、5 周年記念行事のお手伝いもさせて頂いて、会の活動も活発になり、会員数も増え、平成 19 年度には、正会員総数が、684 名になりました。そして、平成 21 年に 10 周年記念を迎え、会報「創立 10 周年記念特集号」が発行されました。

しかし、その前年のリーマン・ショック後、景気の低迷や年金への不安、65 歳まで定年延長が可能になったことから「働けるまで働きたい」というシニアが増え、会員数が伸び悩みました。

その後、団塊世代が 65 歳に達した平成 25 年に、「ロングステイ・フェア」に初参加して会の PR に努めた結果、新規入会者が前年度 54 名まで落ち込んでいたのが、80 名に回復し、各支部でも活発に活動して下さって翌年も 75 名ほど入会されました。

ところが、ネットでますます簡単に情報が手に入れ易くなったりで入会される方の減少、会員の高齢化に伴い、ロングステイ先も海外から国内へシフトする会員が増え、退会される方が増えてまいりました。

会員の皆様のお知恵をお借りして、高齢になっても「楽しく、仲良く、情報交換出来る会」になるよう、努めてまいりますので、どうぞ宜しくご協力頂きますようお願い申し上げます。

末筆になりましたが、会員の皆様のご健康を願いますと共に、会のますますの発展を願いましてご挨拶とさせていただきます。



## NPO法人創立20周年記念に寄せて

南国暮らしの会 前理事長 No.732 馬場 章介

20周年おめでとうございます。「継続は宝なり」ですよ。しかしこの10年間でこの会も変わってきたなと強く感じております。

約10年前、理事を務めていた頃、ちょうど10周年を迎えました。10年は大きな節目なので「何か10周年記念行事をしよう」という声が多くあがりました。そこで早速10周年事業実行委員会を編成し私も一員に選ばれました。

何回かミーティングを行いテーマを決め、具体的な行動に入りました。メインテーマは10年間で蓄積されたロングステイのノウハウ、貴重な情報を一つにまとめて会員全員で共有化し、今後のロングステイに生かしていこう、ということになりました。

過去十年間の資料を集め、それを精査し一枚のCD-ROMにまとめて全員に配布しました。10年間の貴重な情報をまとめる作業は大変でした。多くの実行委員の方々は大変苦勞しましたが、やりがいも感じた記憶があります。自己満足だけではなく、時代は変わりましたが今でもきっとロングステイに役に立っていただけるのではないかと考えております。

今振り返ってみると、その前の十年間とその後の十年間ではこの会も大きく変わった気がします。

どんな所がというと、特に感じる点は10周年行事前は良くも悪くも会の発足当時の理事が固定され、家庭的な雰囲気のいい会でした。しかしそこには少し個人的な価値観で意見を述べたり、行動を起こしてトラブルに発展したこともありました。

ところが10周年を境に新しい会員の方たちが多く理事に参加していただき、NPO法人としてのコンプライアンスが高まったように感じております。そしてロングステイの対象国もフィリピン中心の時代からマレーシア、タイやオーストラリア、ニュージーランドと広がり多くの情報が流れるようになりより魅力的な会になっていきました。

この20周年を迎えるにあたって思い起こすキーワードがあります。それは「不易流行」という言葉です。会は時代の変化に絶えず敏感であって変化してもらいたいと同時に伝統的に素晴らしいところは是非継続していってもらいたいと期待いたしております。特に「この会は楽しく仲良く」というスローガンは大事にしていきたいと願います。

最後に、これからの会のますますの発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。



## NPO法人創立11年目から20年目までの10年間の会の活動

南国暮らしの会 相談役 No.434 大野悦子

NPO 法人認証 10 周年を迎えた平成 21 年までの歴史は、創立 10 周年記念特集号の「会の歴史と沿革」（平成 21 年 9 月 30 日刊）に当時の宮崎相談役が寄稿されていますので、今回は平成 22 年以降の会の歩みを記載します。なお、年度ごとの詳細については会報電子版の 2011 年春季号以降をご参照下さい。

### 【平成 22 年（2010 年）】

(1) 役員の変更期にあたり、下記のようになりました。

理事長の交代 NO.732 馬場章介氏が理事長に就任されました。

退任理事 17 名 再任理事 4 名 新任理事 13 名 理事総数 17 名

退任監事 1 名 再任監事 2 名 新任監事 1 名 監事総数 3 名

(2) 支部長の変更

北海道支部 NO.625 工藤俊一氏 → NO.1009 佐藤浩己氏

東北支部 NO.218 和田 隆氏 → NO.498 氏家 孝氏

関東甲信越支部 NO.732 馬場章介氏 → NO.1125 佐々木一信氏

関西支部 NO.754 松本都志重氏 → NO.891 徳永卓雄氏

九州支部 NO.851 稲田 聡氏 → NO.581 朝永清寿氏

KL 支部 NO.860 棚村信了氏 → NO.1050 野村晃正氏

ペナン支部 NO.524 川崎 勇氏 → NO.1020 松下 茂氏

ハワイ支部 NO.699 大黒 均氏 → NO.712 高田勝弘氏

(3) 会報の発行が、年 4 回発行から年 3 回発行となりました。

(4) 会報の新年号が「創刊 50 号記念」となり、創刊当時の竹内会長の記事の抜粋が掲載されました。NPO 法人創立時の初代理事長の池田徳三郎氏が、会報の発行の歴史を詳しく記事として寄稿されました。

(5) 会員動向 新規会員 59 名 期末正会員総数 642 名

### 【平成 23 年（2011 年）】

(1) 支部長の変更

北海道支部 NO.609 三島克幸氏が就任されました。

空席だったダバオ支部長に、NO.1261 藤本晴久氏が就任されました。

(2) 会の活動

11 月に開催されたタイ国政府観光庁主催の「タイ納得セミナー」（来場者 500 名）に、東海支部が参加協力して「南国暮らしの会」のブースを出しました。

(3) 会員動向 新規会員 55 名 期末正会員総数 608 名

### 【平成 24 年（2012 年）】

(1) 役員の変更期にあたり、下記のようになりました。

理事長の交代 NO.434 大野悦子氏就任



退任理事 4名 再任理事 13名 新任理事 5名 理事総数 18名  
退任監事 2名 再任監事 1名 新任監事 2名 監事総数 3名

(2) 支部長の交代

関東甲信越支部 NO.750 小松勝正氏就任  
東海支部 NO.543 清水重一氏 → NO.840 岩田 彬氏  
ペナン支部 NO. 37 野一色信正氏就任

(3) 会の活動

\* 11月17日にロングステイ財団主催の「ロングステイフェア」に初参加しました。  
\* 11月18日には、タイ国政府観光庁主催の「タイランド・ロングステイフェア」に東海支部役員の協力でブースを出しました。(来場者 400名)

(4) 会員動向 新規会員 54名 再入会員 2名 期末正会員総数 599名

**【平成 25 年 (2013 年)】**

(1) 理事体制

退任理事：1名 新任理事：2名 理事総数：19名

(2) 支部長の交代

北海道支部 NO.1285 桂 裕章氏就任  
東海支部 NO. 853 岩槻玲子氏就任  
関西支部 NO. 816 有元義晶氏就任  
チェンマイ支部 NO. 909 鈴木通弘氏就任  
ハワイ支部 NO.1016 村林修次氏就任

(3) 会の活動

\* ロングステイ財団の公的法人賛助会員となりました。  
\* 6月12日に「南国暮らしの会」の事務所所在地変更届提出  
元理事長宮寄哲郎氏宅を9年以上お借りしていましたが、ご厚意で都内在住の前理事長馬場章介氏宅「東京都台東区下谷三丁目20番20号リベルテ501」に変更させて頂きました。  
\* 6月に九州支部が支部創立10周年を迎え、福岡市市民福祉プラザで記念総会を開催。  
\* 6月に南国暮らしの会「必携」改訂版を作成、配布しました。  
\* 8月にイカロス出版社から発行された「ロングステイ入門ガイド」の取材に協力し、3組の会員（ゴールドコースト NO.586 磯崎興志氏、チェンマイ NO.1041 中西岩夫氏、ダバオ NO.1125 佐々木一信氏）の体験談と「南国暮らしの会」の活動も紹介されました。  
\* 10月5日に、北海道支部10周年記念サロン会が、札幌市のジャスマックプラザ・ホテルで開催された  
\* 10月13日に、福岡で開催された「タイ・ロングステイ・セミナー」に九州支部長がパネラーとして参加されました。  
\* 11月2日に開催された「ロングステイフェア2013」に参加。  
\* 11月14日付の産経新聞の「生活情報欄」で「南国暮らしの会」が紹介されました。

(4) 会員動向

新規会員 80名 再入会員 5名 期末正会員総数 621名

## 【平成 26 年（2014 年）】

(1) 役員の改選期にあたり、理事と監事の交代がありました。

退任理事：11 名 再任理事：7 名 新任理事：11 名 理事総数：18 名

退任監事：2 名 再任監事：1 名 新任監事：2 名 監事総数：3 名

(2) 支部長の交代

関東甲信越支部 NO.1118 肥後憲尚氏就任

東海支部 NO. 843 土井研一氏就任

関西支部 NO. 173 平山三雄氏就任

マニラ支部 NO. 999 中山恒夫氏就任

セブ支部 NO. 636 鶴岡照郎氏 → NO.1124 田上 篤氏

ペナン支部 NO.1546 渡邊照夫氏就任

チェンマイ支部 NO. 239 伊藤 寛氏就任

クアラルンプール支部が復活し、NO.1682 守田 章氏が就任されました。

(3) 会の活動

\* 2月に「ロングステイ財団」の「賛助会員年次総会」が開催され、前年度に財団の「公的賛助会員」に新規加入した「南国暮らしの会」は、大野理事長が壇上で「南国暮らしの会」の概要の説明を行った。

\* ヤフーが「グループ・メール」の配信を辞めた為、3月から「南国 ML」に代わって、「南国 BBS（掲示板）」がスタートしました。

\* 5月24日、25日に「関空旅博」が開催され、関西支部が「南国暮らしの会」のブースを出展しました。

\* 5月19日付の北海道新聞で「南国暮らしの会・北海道支部」が紹介され、6月14日に開催する「北海道支部総会」の記事を知った方達からの問い合わせが殺到し、急遽、7月5日に北海道支部と本部との共催で「南国暮らしの会・説明会」を開催した。（歌田副理事長が本部から参加）

\* NO.900 島林健二氏がロングステイ財団の季刊誌「LONGSTAY2014 夏号」に記事を投稿されました。

\* マレーシア政府観光局、「ゴルフ・ダイジェスト」社、ロングステイ財団の共同企画で「ロングステイ・ゴルフ ガイド（マレーシア編）」が発行され、「南国暮らしの会」の広報部が協力し、守田クアラルンプール支部長が取材協力致しました。

\* 朝日新聞社から取材依頼があり、ペナン支部の NO.37 野一色信正氏、NO.330 横山豊氏、NO.1284 高木進氏に協力を頂きました。

\* 11月29日に開催された「ロングステイフェア 2014」に参加。

\* 読売新聞社から取材依頼があり、バギオ・パンナシガン支部長の NO.227 斎木一氏に取材協力を頂きました。

(4) 15周年記念行事

\* 9月にダバオ支部で「南国暮らしの会 15周年記念祝賀会」を開催しました。

\* 11月30日～12月1日にかけて、関西支部・九州支部交流会が山口県秋吉台国際芸術村で開催され、オープニング・セレモニーに本部から大野理事長がスカイプ電話を使い、挨拶とピアノ演奏を行った。

\* 東海支部では、11月と12月に「ウイユ愛知」で外部講師を招いて、「健康セミナー」、「ミャンマー紹介」、「台湾紹介」を行った。

(5) 会員動向

新規会員 74名 再入会員 1名 期末正会員総数 602名

**【平成27年（2015年）】**

(1) 理事体制

退任理事：2名 新任理事：3名 理事総数：19名

(2) 支部長の交代

東海支部 NO.1544 森 幸太郎氏就任

(3) 会の活動

\*会報の2015年春季号で、各支部での「15周年記念行事」の開催報告の記事が掲載された。その他に、「マレーシア特集」として、KL,ペナン、イポーにLS中の会員の記事が掲載されました。

\*7月にイカロス出版社から「フィリピンでロングステイ」の出版にあたり、ダバオの藤本支部長、佐々木一信氏、元理事長の宮崎哲郎氏、マニラの中山支部長が記事を寄稿しました。

\*高齢会員の退会を防ぐ為の「アフターロングステイ委員会」を立ち上げ、活動を開始しました。

\*11月に開催された「ロングステイフェア・2015」に出展参加しました。

(4) 15周年記念行事

\*2月にチェンマイ支部で15周年記念行事として、会員がストッキングの提供協力をしている「義肢財団」の工場訪問を行いました。

\*6月にハワイ支部で15周年記念行事でゴルフコンペやサロン会を開催致しました。

(5) 会員動向

新規会員 42名 再入会員 2名 期末正会員総数 549名

**【平成28年（2016年）】**

(1) 役員の改選期にあたり、下記のようにになりました。

退任理事：7名 再任理事：12名 新任理事：5名 理事総数：17名

退任監事：2名 再任監事：1名 新任監事：2名 監事総数：3名

(2) 支部長の交代

東北支部 NO.1027 佐藤周司氏就任

関東甲信越支部 NO.1607 阿部滋敏氏就任

九州支部 NO. 651 穴見保彦氏就任



ハワイ支部 NO.1439 塩川 亨氏就任

セブ支部 NO.1410 加藤正也氏就任

(3) 会の活動

\* 3月18日にロングステイ財団主催「長期滞在型ロングステイ観光学会・設立総会」が開催され、パネリストとして大野理事長が参加した。

\* 5月29日にロングステイ財団主催の「ロングステイフェア・in 大阪」が開催され、「南国暮らしの会」もブースを出し、関西支部役員が活動致しました。

\* 8月8日にロングステイ財団主導による「第1回日本版 CCRC 二地域居住先進自治体市長サミット」が日比谷公園内のコンベンションホールにて開催され、大野理事長と広報部から NO.1207 宮原正宇氏と NO.1388 寺田光江氏が参加致しました。

\* 9月14日に開催されたロングステイ財団主催の「台湾ロングステイセミナー」に支部推進部長の今野力男氏がパネルディスカッションのパネラーとして参加されました。

\* 10月9日に「南国暮らしの会」東北支部主催による「第一回東北地区ロングステイの集い」セミナーが「仙台市民活動サポートセンター」にて開催され、講師としてタイ国政府観光庁の藤村喜章氏とロングステイ財団の常岡武氏、及び元理事の磯崎興志氏を招聘し、本部から理事長と広報部会から3名が応援参加致しました。20名の参加者でした。

\* 11月26日に開催された「ロングステイフェア2016」に出展参加しました。タイ国政府観光庁主催のセミナーに NO.900 島林健二氏がパネラーとして参加されました。

(4) 会員動向

新規会員 47名 再入会員 3名 期末正会員総数 545名

**【平成29年(2017年)】**

(1) 役員体制

退任理事：4名 新任理事：5名 理事総数：18名

退任監事：1名 新任監事：1名 監事総数：3名

(2) 支部長の交代

東海支部 NO.1601 高島 恵氏就任

関西支部 NO. 501 大川泰永氏就任

KL支部 NO.1822 酒田 充氏就任

ペナン支部 NO.1630 菅野 純氏就任

セブ支部 NO.1623 田口秀男氏就任

(3) 会の活動



- \* 5月13日に開催された「第2回ロングステイフェア2017in大阪」に「南国暮らしの会」が出展し、関西支部役員が活動されました。
- \* 10月から「南国ML」が復活されました。「南国暮らしの会掲示板」も併用して活用することになりました。
- \* 10月からチェンマイ支部で「タイ義肢財団」への「古ストックキングの提供協力」が、再開されました。
- \* 11月20日に「東京国際フォーラム」で開催された「ロングステイ・フェア2017」に出展参加致しました。

(4) 会員動向

新規会員 27名 再入会員 21名 期末正会員総数 457名

**【平成30年(2018年)】**

(1) 役員の変更期にあたり、下記のようになりました。

理事長の交代 NO.1607 阿部滋敏氏が就任されました。

退任理事：11名 再任理事：7名 新任理事：5名 理事総数：12名

退任監事：1名 再任監事：2名 監事総数：2名

(2) 支部長の交代

関東甲信越支部 NO.1591 肥後信彦氏就任

ペナン支部 NO.1402 橋本哲男氏就任

ハワイ支部 NO.1278 外池一子氏就任

(3) 会の活動

\* 5月に開催された「ロングステイフェア2018in大阪」に出展参加致しました。

\* 6月25日に「リッツカールトン東京」で開催されたフィリピン・ビジネスセッションに大野相談役と広報部から定國部会長と丸山副部会長が参加致しました。

\* 7月に北海道で北海道支部と東海支部の交流会が開催され、他にも当時、滞在していた関東甲信越支部や関西支部の会員も参加されました。

\* 11月26日に開催された「ロングステイ・フェア2018」に出展参加致しました。タイ国政府観光庁主催のセミナーにNO.996 歌田晃一氏がパネラーとして参加致しました。

\* 11月27日には、「インドネシアミーティング」が開催され、阿部理事長と広報部から2名が参加致しました。

\* 11月28日の「フィリピンロングステイ・フェア」には、広報部会から3名が出席致しました。

(4) 会員動向

新規会員 41名 再入会員 4名 期末正会員総数 493名

**【令和元年(2019年)】**

(1) 役員体制

退任理事：2名 新任理事：2名 再任理事：2名 留任理事：10名

理事総数：12名

再任監事：1名 留任監事：1名 監事総数：2名

(2) 支部長の交代

東海支部	NO.1674	神谷宜門氏就任
関西支部	NO.1608	森川 建氏就任
ペナン支部	NO. 813	石渡清志氏就任
クアラルンプール支部	NO.1831	西田富男氏就任

(3) 会の活動

- \* NPO 法人創立 20 周年記念行事の準備の為の「特別委員会」が発足する。
- \* 11月22日（金）に、「役員・支部長会」が開催されました。
- \* 11月23日（祝）に、大和ハウス工業株式会社東京ビルでロングステイ財団主催の「ロングステイフェア 2019」が開催され、ブースを出して参加致しました。

## 創立20周年記念に寄せて：各支部から

### 北海道支部のこの10年

北海道支部 支部長 No.1285 桂 裕章

#### 1.はじめに

南の会の20周年に当たり、この10年間の北海道支部の事業、活動を振り返って、ここでは主なトピックスなどについてとりあげてみたいと思います。

#### 2.「南の会・説明会・in SAPPORO 2014」の開催

2013年に北海道支部は発足10周年を迎えた。

当時は年二回のサロン会の出席者も20人前後と発足当初の30人程から減少し低迷する状況が続き、その活動もマンネリ化の傾向にあった。こうした中で、地元の新聞社からシニアの海外旅行などについて支部長として取材を受けており、南の会のプロモーションの良い機会ともなっていた。それらをもとに、2014年5月19日付の北海道新聞の生活面に「南の会・北海道支部」記事が掲載されることとなった（別紙参照）。

この記事はカラーの南国のイラストが目を引き読者にも読みやすく、分かり易く編集されていた。またこの中では、入会への呼びか



けも行った。このためか、この記事が掲載されてからの読者からの反響が予想以上に大きく、支部としての対応が大変な事態となったのであった。記事掲載の翌日からの支部へ

の問い合わせは181件にも達した。この予想をはるかに超える反響の大きさに、新米の支部長をはじめ役員もうれしい悲鳴を上げ、対応に毎日忙殺された。(笑)

まず問題は6月の総会の収容人員が45人しかないことであった。それで急遽、別途7月5日に200人収容可能な札幌市厚別区民センターを予約し、ゲスト向けに臨時の説明会を開催することに決めた。

参加希望のゲストには、全員に電子メールなどで新たに説明会を開催する旨の案内状を送った。本部からも講演者として、歌田副理事長の参加も要請。また当日は札幌に夏のロングステイ中の理事の宮原さんにも参加していただき、ご協力いただいた。



### 3.「北海道支部会員のロングステイの新聞掲載記事」

#### (1) 北海道新聞・掲載記事

札幌での2014年の説明会開催により、2015年、2016年の両年は、新会員も順調に増えて支部にも活気が出てきた。そして、北海道新聞社からは「海外のロングステイ」の原稿依頼がきたのでした。同新聞では2015年3月からの新紙面で「豊かな人生の送り方」についての・・・楽しく役に立つ情報を・・・掲載することに決まったとのことで、南の会の支部にも海外ステイの体験記の寄稿の依頼であった。

それで、同社の編集部長との打ち合わせをしたところ、毎月隔週月曜日の「旅」の中で取り上げたいのでとの、協力依頼でした。

何しろ急な事で支部としても初めての試みでもあり、即答はできなかったが、ベテランのメンバーにも聞いてみたところ予想外に旅のメモや写真が残っているから、協力しても良いとの声もあった。

南の会の会報の毎回の投稿依頼にでさえ四苦八苦しているのに、地方ブロック紙とはいえ発行部数約100万部の「北海道新聞」に掲載とは全くの想定外のことであった。しかし、30数人も多くの有望な新メンバーを迎えて、将来の活性化の兆候を感じた、支部執行部は投稿をすることを決断。当初は2、3カ月も持てば(続けば)良いと覚悟していたのですが・・・、「案ずるより生むが易し」、何と3月から翌2016年4月まで隔週で1年2カ月間の連載が続いたのです!この支部メンバーの素晴らしいパワーには圧倒されました。記事の投稿者は8人、ステイ先はアジア、オセアニア、北米の8カ国10地域にも及びました。投稿はまずは支部長、役員から、率先垂範して紀行文を書くことに。

スタートは2015年3月16日、「ネパール・神秘の国」戸口愛子さん。ヒマラヤのmatterホルン「マチャプチャレ」の秀峰の素晴らしい写真が初回の紙面を飾りました。

今回は3月30日に、「ダバオ・快い海風」は不肖小生が寄稿しました。私が驚いたのは、1年後に同じ民宿を訪れた時に、この新聞記事が何とこの民宿の玄関の額縁に入れて飾って・・・?あったのを目にしたことでした。

(宿のスタッフに聞いたところ、北海道からの旅人が持ってきたそうです(笑))



ダバオの民宿

ここでは次に、2015年6月1日掲載の「バンクーバー・英会話の勉強」の桜庭発子さんと、2016年1月18日掲載の「ニュージーランド・一周3000キロドライブ」の池田邦彦さんの紀行文を転載します。

## (2) 日本経済新聞・掲載記事から



今年に入ってから、日本経済新聞社から国内・海外のロングステイについて支部に取材依頼があり、次の旅の記事として掲載されました。

2019年8月1日付で、「長期滞在・冬のタイ、夏の北海道」のタイトルの記事です。



その後、この記事を読んだ国内の読者から支部長あてに問い合わせも数件ありました。

これらのロングステイの北海道支部の新聞・掲載記事については、南の会のHP—南国便り—「マスコミ掲載記事」からも見ることができますので、ご覧ください。

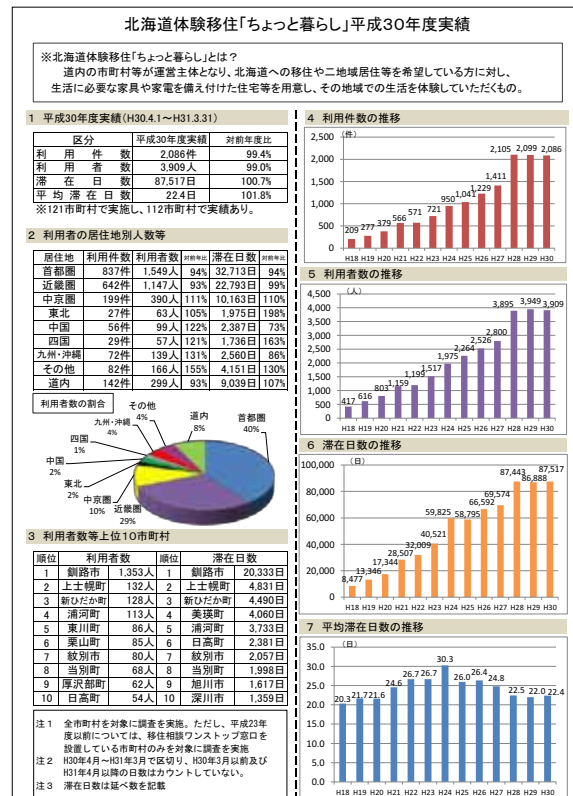


## 4. 北海道体験移住「ちょっと暮らし」の2018年実績

近年、特に夏の北海道はリゾート地として国際的にも人気が高まってきました。

ニセコ、富良野・美瑛などの観光地の他にも、函館、小樽、札幌の都市圏にもロングステイ（季節移住）する人々がたくさん増えてきました。人気のある宿泊先は前年中に予約が必要な物件も出てきています。

昨年度の北海道体験移住「ちょっと暮らし」の実績を北海道庁から入手しましたので、概略を添付します。またステイ情報などは「北海道で暮らそう」で検索ください。





## 東海支部の歩みと課題について

東海支部 元支部長 No.840 岩田 彬

NPO 法人『南国暮らしの会(通称、南の会)』設立 20 周年を迎えるにあたり、心よりのお慶びを申し上げます。

本会は、特定非営利活動法人『南国暮らしの会』として、東京都の承認を得て、1999 年 11 月 6 日の発足総会の席でスタートしたと会報にあります。

従いまして、今年 11 月に発足 20 年目を迎えることとなります。

東海支部は、本部から 2 年半程遅れて、2002 年 5 月に会員数 10 名足らずでスタートしたと、当初の横井初代東海支部長が述べておられます。

最初は、同じ目的を持った仲間の集まりという意識でわずかな会員数でしたが、各種交流会も活発に開催され、また体験ツアーも時々実施されていたようです。

その後も、発足当時の形態を踏襲しつつ、会員の希望を取り入れて、楽しい南の会を目指していたと伺っています。現在も、当初の流れを引き継ぎ、定例会、サロン会、懇親会等、頻繁(月 1 回)に開催されています。

また、ゴルフをされる方も、当支部には多くおられるので、春秋のベストシーズンに、毎月 1 回ペースで年間に 6 回のコンペを開催しています。

次に、南の会の最大の目的であるロングステイにつきましては、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシアの国々でユートピア体験ツアーも何度か実施してきましたので、過去の実施例をご紹介します。

まず、2007 年 9 月、約 2 週間の予定でフィリピンのダバオ、バンガシナン、バギオ、マニラの各都市をチャーターバスおよび航空機を乗り継いで、ロングステイの体験ツアーを実施し、適地の探索をして参りました。

紙面の都合もありますので、印象に残って

いることを一つだけ述べさせていただきますと、フィリピンのバンガシナンで小学校 2 校(カバルアン小学校、サンファビアン小学校)を訪問し、我々からの記念品としてバトミントンやバレーボールの運動具を差し上げましたところ、校長先生からは長年の夢が叶い、お蔭様でバレーボールが出来るようになりますと、大変喜んで頂きました。

小学校の生徒さんも校庭に 40~50 人程、集まってくれまして、鼓笛隊のフォーメーション演奏や『上を向いて歩こう』を大合唱して、大きな歓迎の意を表してくれましたことには、訪問した我々の方が大感激でした。

これら小学校 2 校の訪問計画等のプランにつきましても、地元ウルダネータ在住の S さんに、またバス、ホテル等につきましても、マニラの I さんにそれぞれご手配頂き、地元で詳しいお二人がおられたからこそ、トラブルもなく順調に全行程が運べたことに今でも大変感謝している次第です。



小学校の生徒さんによる演奏風景

次はその後の 2012 年 2 月に実施されました、インドネシア体験ツアーです。

これは、ジャカルタ市内のホテル(ラックスホテル)を集合場所としてし、インドネシアの主要都市(ジャカルタ、バンドン、ボロブドゥール、バリ)をチャーターバスと列車、航空機を乗り継いで、約 2 週間で巡る計画で、最終的にはジャカルタへ戻って解散することになっていました。

企画と現地での幹事役を引受けて頂いたのは、現地事情に詳しいYさんです。

Yさんは、現役時代、ジャカルタで駐在員を長年経験しておられた関係で現地事情に明るく、インドネシア語にも精通しておられましたので、打ってつけの方でした。

お蔭で、我々は何の心配もなく、あまり観光地化していない、しかも我々にとって初めてのジャカルタ、バンドン訪問を楽しく印象に残る滞在体験をすることが出来ましたことは、思い出に残るものでした

やはり海外での体験ツアーを実施するには現地の事情に詳しい人がおられることが、大きなポイントになるのではと痛感した次第です。

なお、この体験ツアー中に思い掛けないハプニングにも遭遇しました。この体験ツアーに参加されたKさん夫婦のご主人が、ジャカルタ滞在中に、高熱を発症され、現地の病院に入院されましたが、数日後無事退院された元気なKさんに再会することが出来、全員ほっとした次第でした。



花の街とも呼ばれるバンドン市内の宮殿公園

我々は現地の言葉が全く分からず、ただ見守るだけで何のお手伝いも出来ず歯がゆい思いましたが、Yさんの素早い対応に安堵致した次第です。

次に、高原都市バンドンを訪問した際に、市内のホテルにチェックインしてグループで夜の街に出掛けようとホテルから歩道へ出ようした際に、周辺は既に日没で暗く、更に側

溝に蓋がないことに全く気付かず、その中に落下してしまったのが、Iさんです。こちらの側溝は、日本とは違い深さが人間の背丈程もあり、落ちた場合は頭や手足を打ち大事故になりかねませんが、幸いなことにかすり傷程度で済みました。

また、南国では破傷風にも十分気を付けなければならぬ病気の一つですが、それも罹患はなく、大事に至らず、実にラッキーと言うほかありませんでした。

特に、グループで行動する場合には、何が起こるか予測できず、あらゆるリスクの可能性についても、頭の中へ入れておく必要があることも勉強しました。

また、あまりにも神経質になると、何の行動も起こせなくなりますので、その兼ね合いが難しいと思います。

最後に、当支部で私の記憶に残る会員を何人かご紹介させていただきます。

最初は、Mさんという会員で、目的は最初からはっきりしておられました。

その目的はフィリピンでロングステイをして、フィリピンの女性を見つけて結婚しそこで余生を送るということで、まさに『南国暮らし』そのものでした。

フィリピンでのロングステイの準備が整い、フィリピンへ渡られ、程なくして目的を実現されたという噂をお聞きしましたが、その後の消息は不明です。

次に、Kさんという方です。この方も入会当初から目的は、はっきりした方でタイのチェンマイでロングステイをエンジョイすることと早々に決断され、その目的に向けて、積極的に行動されました。チェンマイでは車も所有されゴルフもお好きな方で、大いにチェンマイ生活をご夫婦共々楽しんでおられました。

帰国された折は、当支部の定例会にも出席され、チェンマイの現地情報等をご報告頂き、当時、当支部からの訪チェ会員も増加したも

のです。

他の訪チェ会員に対しても、ゴルフのお世話等を精力的にされましたので、お世話になった会員の方も多いのではないでしょうか。

しかし、その後体調を崩され、残念なことに亡くなられてしまいました。

実家の近くで葬儀が行われ、喪主を務められました息子さんから、南国をこよなく愛された父親に対して、『晩年の父は本当に幸せでした』とのお礼のご挨拶があり、大勢(150人程)の会葬者が別れを惜しみました。

次に現会員のYさんですが、現在90歳(卒寿)で、しかも毎月開催されます定例会およびサロン会には殆ど毎回出席です。

これら行催事の出席率は当支部でも、ベスト1~2に入るのではないのでしょうか。

最近まで、当支部の会員名簿とメールアドレス

レスの管理を長年に亘り担当されていましたが、先日、若い?会員にバトンタッチされたばかりです。

長年に亘り骨の折れる業務をご担当頂き、有難うございました。

先日も長寿の秘訣は何ですか?とお尋ね致しましたが、特別な体操やスポーツはしておられないそうで、ただ何でも好き嫌いなく美味しく食べられるとのことで、強いて言えば牛乳を毎日大量に飲むことくらいかな、とのことでした。

このような会員がおられますことは、当支部の会員ならば、どなたもご存知で頼もしい限りですので、他支部の会員にもご紹介させて頂きます。

これからも、ご健康に留意されまして、益々のご健勝とご長寿を続けられますことを心よりお祈り申し上げます。 以上

## 「南国暮らしの会」発足20年に当たって

東海支部 支部長 No.1674 神谷宣門

東海支部における課題と解決に向けての対応策およびその現状をご報告いたします。

まず当支部における課題は①会員の恒常的な減少問題に対する新規会員の増加対策。②魅力的な支部活動をいかに行うかという2点です。①と②は互いに大きく関連するものであります。魅力的な活動を行えば支部会員の退会を防ぐことができます。また、会員の口コミを通して新規会員の入会、すなわち会員の増加を図ることも可能になります。

当東海支部では6月にこれらの対策として5名からなるプロジェクトチームを発足いたしました。チームの長は山田会員が務め、おおむね月1回の会合を重ねているところであります。

### 1.新規会員の獲得対応策として

#### ① 高年大学へのアプローチ

名古屋市が主催する鯉城学園という、リタイアしたシニアを対象とした学校があります。その施設へのPRを行って新規会員の獲得を目指しましたが、民間団体のPRについては協力できないとのことでした。

#### ② メディア対策

中日新聞への働き掛けを行っていますが、現時点では先方からの反応はありません。しかし、引き続き継続していく所存です。

#### ③ 企業への働き掛け

現在のところ未着手です。

#### ④ 県・市町村

名古屋市内の生涯学習センター(千種区・名東区・東区・守山区)にチラシを置くことができました。(名古屋市内には16か所あります)今後も活動を継続していきます。

公益財団法人あいち男女共同参画財団が

主催する「ウイル愛知フェスタ2019」(2020年1月25日実施)のイベントに出店してPRおよび会員獲得活動を行います。現在はフェスタへの参加動員を呼びかけるチラシを配布中です。

#### ⑤ その他

民間施設へのチラシ配布作業を継続中。ゴルフ練習場・スポーツジムでは断られました。ダンス教室2ヶ所・英会話スクール1ヶ所・パソコンスクール1ヶ所にチラシを置くことができました。今後はマンション管理組合・町内会も含めた新たなターゲットを模索しながら継続していきたいと考えています。

\*これらの活動は現時点で評価できる段階ではありません。活動は2019年7月から開始しており、少なくとも1年ぐらいの経過を見なければ判断できないと思います。引き続き活動を継続していきます。

## 2.魅力的な支部活動

支部活動を魅力的なものにすることによって会員の満足感を高め、会員の知人に対する口コミ宣伝が期待できます。その口コミを通して新規会員獲得を図る可能性が生まれます。他支部活動も参考にしながら以下の活動を推進していきます。

#### ① 定例会の充実

\*会員の関心を持つ分野の講師を招く。  
海外情報に詳しい外国人講師、健康管理に関するテーマ、相続・資産管理、そして

エンターテインメント。

#### ② この指止まれ活動

海外もさることながら、国内で手軽に実行できる日帰りおよび1・2泊の小旅行の実施。パック旅行の活用。

#### ③ 趣味の会活動の活発化

食べ歩き、寺社・庭園巡り、ハイキング・ウォーキング、映画鑑賞、読書サークル、パソコンクラブなど日常に密接した活動を推進する。

#### ④ 遠隔地会員を支部活動に参加してもらうための対策

遠隔地の会員の中で定例会に出席していない会員がかなりいます。それぞれのブロック単位でのミーティング、あるいは行事を行う。会員が地域の特徴ある行事を紹介することによって他地域の会員を呼び込み相互のコミュニケーションを図る。

## 3.パソコン・スマートフォン活用による会の活性化を図る。

現在、スマートフォンでのLINEを活用したサークルがいくつかできています。これをもっと多くの会員に拡大して、会員相互のコミュニケーションをより密接にし、活性化を図る。また、会員獲得の方策として魅力的なブログを作成する。

こういった活動を推進することによって「東海支部南国暮らしの会」を発展させていきたいと考えています。

## NPO法人20周年の節目を迎えて

関西支部 元支部長 No.173 平山三雄

この度NPO法人20周年を迎えられることにあたり元会長、理事長及び理事等多くの役員の方々のご努力に深く感謝いたします。

私は1999年、60歳定年退職を8年後に控え入会いたしました。

入会時からの会報誌を懐かしく読みながら(目次を主に)私なりに20年を振り返ってみました。

当時は「南国暮らし夢の会」とあり、故竹内司会長のもと主にフィリピンへの移住、ロ

ングステイが中心でした。そして、プエルト・アズールリゾート地を念頭に「南国夢の村」建設推進委員会が結成されました。また、3月現在の会員数は138組（198名）でした。

「南の会」99年春季会報		目次
*会員敬称略		
・表紙	イラスト：長谷川 登志郎	
・目次		1頁
・会長挨拶	竹内 司	2～3
・総会、例会、懇親会案内		4
・会則改訂案		5～7
・「南国夢の村」建設推進委員会からのご報告	西村 志司	8～10
・フィリピンのレポート・退職者村ブーム	三井田 雅俊	11
・私の見たフィリピン	高橋 昭	12
・フィリピン医療事情の一端	深沢 郁雄	13～14
・フィリピン居住地探訪ツアーに参加して	林 元則	15～16
・フィリピン居住地探訪ツアーあれこれ	池田 徳三郎	17～18
・フィリピン訪問記	高澤 弘晃	19～20
・「南国暮らし夢の会」への入会動機	田口 幸秋	21～22
・おいでよ常夏の国ダバオへ	(会員外寄稿) 北川信正様	23～24
・セブ島のマリヤ先生からの便り	(会員外寄稿) マリヤ様	25
・北島 雅 盛	(会員外寄稿) 長倉洋平様	26～28
・南の国に安住の地を求めて	寺前 伊蔵	29～30
・あなたも微笑みの国タイに行ってみませんか	竹村 毅俊	31
・名簿追加（大阪例会要旨報告以降入会者）		32～33
・役員会議事録抜粋		34～39
・「南の会」会報、役員会から見る会の動向	長谷川 登志郎	40
・事務局から、あとがき		41

当時の会則 第4条【目的】(1) 本会の主な目的は外国暮らし（南国暮らし）を勉強する会である。(2) 本会は南国（主にフィリピン）に健康的で楽しい生活の場を前向きに検討している会員及び外国在住者が、楽しく過ごす為に体験滞在や情報収集を通し、会員相互の交流を図り、会員の夢の実現と親睦融和を目的とする。

と定義されていました。

同年9月30日にはNPO法人「南国暮らしの会」と改称され「夢」の一文字が削除さ

れ、池田徳三郎様が理事長となりました。

関西支部は6月20日、「パナヒルズ大阪」にて開設され、11月には大橋績初代支部長のもと32名の参加者を得て初めての例会が開催されました。

会員のステイ先にも変化がありました。

フィリピンではマニラ・セブ・ダバオ等に、その後2000年春季会報誌にはマレーシア特集版が組まれるなどマレーシア（クアラルンプール・ペナン島等）、そして現在はタイ王国（チェンマイ等）に多くの会員が訪れるようになってきました。

関西支部においても、「この指とまれ」ツアーを2008年に17名の参加のもとペナン島、コタ・キナバルへ、また、2011年には20名の参加のもとダバオ下見ツアーを2月28日～3月7日をコア日として現地集合方式で実施しました。

### 【今後】

私たち団塊の世代が過ぎ、定年延長が進む中、今後の会員数の増加が見込めにくいと思われれます。また、近年の円安の進行に加え、アジア各国の経済成長により「生活費が安い」というメリットも一時ほどではなくなっているように思われれます。

このような状況下、2016年に設置された「アフターロングステイ委員会（現在の「あゆみの会）」のような会が各支部例会日等に合わせて実施できればと思っています。

以上、拙文ではございますが、この度の20周年の節目を迎えて書かせて頂きました。

## 新天地を求めて

関西支部 前支部長 No.501 大川泰永

会員がずいぶん減っていますね。

いや減って当然ですね。

会員の高齢化や円安、南の国の経済成長、新入会員の減少等原因は複雑です。

今回、「会員を増やすにはどうすればいいのか」をテーマに寄稿を求められました。

難題ですね。そこで自分なりの考えた事を述べたいと思います。

さて、どうすれば会員の減少に歯止めを掛け新入会会員獲得できるのか・・・

まず初めに、皆さんどうして南の会に入ろうと思いましたが？

殆どの方が南国の暖かいところで、趣味を楽しむ、ゴルフ三昧、のんびり過ごすなどの目的で入会されたと思います。

私の場合は「年金で豊かに過ごせる南国」がテーマでした。

実際、入会当時は円高でもあったし、先輩諸氏が色々な国に支部を開設していました。そう、会には魅力がいっぱいありました。でも、今はどうですか？ 固定された情報ばかりでちょっと新鮮味に欠けていませんか？ 会の魅力が減っているから退会される方が多くなっているのではないですか？

問題ですね。じゃあこの状況から抜け出すにはどうすればいいのでしょうか・・・

表題にしましたように、今この会には新天地開拓、新支部設立が必要と考えています。

「最小の費用で最大の楽しみを得る」ある先輩の言葉です。

新天地を求めて動き出す事がとても重要ではありませんか？

これを実現するには組織力が重要ですね。本部、各支部協力し合いながら、候補選定から開拓まで取り組んでみるのはどうでしょう。また、このような取り組みのプロセスは新たな情報、方向性を生み出します。決して無駄にはなりません。

もちろん予算の問題がありますので現状予算を一旦白紙ベースにされ、この新天地開拓に予算を配分することが必要でしょう。

一度原点に立ち返って考えてみることも必要なのではないのでしょうか。

簡単にはいかな問題ですが、このような取り組みが、結果として会員の流失を止め、新入会会員獲得につながるのではないのでしょうか。先輩諸氏が築かれた財産を食いつぶす前に新たな取り組みが必要と考えています。

「南の会 20 周年の節目を迎えて」そろそろ変革の時がきたということですね。

簡単ではありますが、私の意見を述べさせていただきました。蛇足ながら今までの取り組みをすべて否定するものではありません。

最後にこの会が今後も益々発展していく事を願っております。

## 「南国暮らしの会」に入会して思うこと

関西支部 支部長 No.1608 森川 建

南国暮らしの会設立 20 周年に際し、この会を設立しそして、育まれてきた諸先輩のご努力に敬意を表し又感謝いたします。

入会歴の浅い小生に 20 周年の記念の記事を投稿させていただくことになり、光栄に存じます。

60 歳中半会社を退職し、第二の人生を歩むに際し、考えたことは「自由気ままに生きる」「組織に縛られない」「時間に追われない」「目標、規則に縛られない」など考えました。そしてやりたいことをおもいつくまま色々手を出しました。

例えば、地域のシニア大学、大学の公開講座（3 大学）、料理教室、ギター教室、コーラスクラブ等々経験しました。その中に「南国暮らしの会」も在ったわけです。

入会の動機は明確なものではなかったのですが、何となく「人生気ままに自由に生きる」という目標に近いニュアンスを感じ入会したわけでありました。何度か、関西支部の例会、懇親会に参加する内に「チェンマイ」の話がよく取り上げられており、5 年前最初にチェンマイを訪れました。それ以降毎年 1 月～2 月にかけてチェンマイを訪れることが年中行事

になった次第です。

小生自身仕事柄海外の駐在経験もあり、海外生活に憧れたわけではないのですが、アジアの国は馴染みなくチェンマイは新鮮な印象を受けました。何と云っても、寒い日本を抜け出し、ゴルフ三昧、豊富な果物、食事もまずまずで物価も安く、南の会の人々との交流も楽しく、思い出深いものになりました。今でもありがたく思うのは、初めてチェンマイ訪問時、当時のチェンマイの関西支部長の山本さんご夫妻に大変お世話になり、スーパーマーケットの日用品の買い物までお付き合いいただき、チェンマイ生活のいろはを教えて

いただいたことがチェンマイファンになる第一歩だったかなと思います。ゴルフの会も完璧なお世話をいただき我々のような一時滞在者にとってとてもありがたい存在であります。今振り返っても、これぞ「南国暮らしの会」の会員に対する会の存在の在り方だとシンプルに思います。

旅行社あるいはその添乗員のようなサービスは求めませんが、現地に交流の場と仲間が存在し、必要に応じ、情報交換と交流が持てるということがどれだけ心強く、ありがたいかを強く感じた次第です。

## 20周年を振り返って

九州支部 支部長 No.581 朝永清寿

南国暮らしの会が20周年を迎えるに当たって九州支部と私の過去を振り返ってみた。

2009年秋、九州支部10周年記念祝賀会がタイ国政府の領事をお迎えし、福岡市内のホテルにおいて盛大に開催された。

当日は大相撲九州場所の千秋楽の日で、当該ホテルは花籠部屋打ち上げ会場にもなっていて大いに賑わっていた。

総務担当で、祝賀会の進行を任されていたが、タイ国領事が席を外しているのにもかかわらず、開会を宣言してしまい、副支部長を慌てさせ、申し訳ない思いをした事を覚えている。

私がこの会に加入したのはもう少し前で、現役のサラリーマン時代。海外でロングステイをする事は夢の様な話し。日本が嫌になった訳ではないが、当時ベナンに滞在中の木村さんから情報を頂く毎に行って見たい、経験してみたいと思う気持ちが強くなっていった。加えて、「早く仕事を辞めて一緒に遊ばしましょうよ」という当会の会員さんたちからの無責任な？誘惑もあってつい調子に乗り、早

期りタイヤまでしてしまった。

最初のステイした場所はバリ島のサヌール。20日程度過ごした。会員のSさんから大きな住宅を借りたから来ないかというメールでの誘いがあり、それなら行きましょと、一人でデンバサー空港に向かった。単独で最初の海外個人旅行であった。滞在中のSさんから「空港には迎えに行っておけるよ」という言葉だけを頼りに……。

滞在先の住所も、Sさんの電話番号も、なんにも分からないのに、今となっては良くそれだけで行ったなーと自分に感心してしまう。あやふやな気持ちで到着したヤシの木に囲まれた田舎の空港。空港の外に出ると、誰も迎えに来ていない。小さなで、到着客もすぐにどこかに消えてしまい、周りにはほとんど人がいなくなってしまった。“どうして?”……と激しい不安に駆られ生涯で一番長い時を過ごすことになった。ホテルのチラシが壁に貼ってあったが、電話もないし言葉も通じない……役に立たない。今では「少し遅れる」といった連絡はすぐに来るのだが、その時海外で使用できる携帯電話の

必要性を痛切に感じた。

結局迎えには来ていただいて事なきを得たが、サヌールで真っ先に購入したものが携帯だったのは言うまでもない。ノキア製で今はiphoneに肩代わりされ埃をかぶっているが、その後の東南アジア更にはヨーロッパ旅行でも使えて、まだ健在である。事前の情報収集や相互通信がいかに大切か思い知らされた事件であった。

私の海外旅行、ショートステイはここから始まった。



サヌールの海岸

九州支部15周年記念事業は関西支部との合同情報交換会。山口県の秋吉台に集まったの祝賀会。懸命な調整や打ち合わせを行い、両支部の皆さんが会場に集合した。祝賀会は、和やかな雰囲気の中、関西支部の神原さんによる台湾情報の講話、九州支部自慢の深松会員による手打ち蕎麦の実演並びに試食会、スカイプで繋がった大野理事長のピアノ演奏、そして大演芸会と続き、面白く楽しく過ごすことができた。

支部以外の方と交流して仲良くなることは、海外でも役に立つものであり、こういった施策は大切にしたい。

自己責任の名のもと九州支部主催?で最初に海外に行ったのは、支部総会を終えた6月、チェンマイへのロングステイの視察体験旅行だった、忙しいのにもかかわらず当時の伊澤支部長から全員を一堂に集め、歓迎挨拶を受けた。

私を始め初めてチェンマイに行く人が多く、お決まりの小旅行(ゴールドトライア

ングル、メーサイ・タチレク間の国境越え、首長族観光)も行った。



伊澤支部長挨拶

6月は果物のおいしい時期で、九州支部はそれ以降チェンマイには6~7月の訪チェが多い。

その後、マレーシアのボルネオ、コタキナバルへも支部主催?として皆さんと一緒に出掛け、島内旅行、ゴルフ、ショッピング、ドリアンの試食、ラフレシア見物、リゾートホテル(ステラハーバー)滞在等を体験し、海外渡航への不安解消ができて行ったような気がしている。双方ともバリ島で購入した携帯が大いに役に立ったのは言うまでもない。



話は変わるが、ある会員に誘われて夫婦でチェンマイに出掛けた、これがチェンマイでの最初のステイで1カ月滞在したが、カミさんは用事があって先に帰ってしまい、一人残ってさあゴルフだ・・・と思ったが、私たちを「一緒にゴルフしましょうよ」と誘った張本人からゴルフの誘いは一度もなく放置されてしまった。一人でゴルフにもいけず本ばかり読んでいたところ、関東支部の今野さんから声を掛けて頂き又東海支部の横井さん達ともご一緒でき、帰国まで楽しく過ごすこと



ができた。その時の今野さんからの恩は忘れられない。(本人を目の前にして白状したことはないが)

当会に所属していて良かった。頼りにしている訳ではないが、知り合いがいると言う事は安心感もあり、益々楽しく過ごせるものである。今誰が何処にいるのか南国メールで知ることができる。つくづくこの会の強みがそこにあると実感している。

当支部のモットーは、仲良く楽しく、情報交換と仲間作り。支部内では定例情報交換会だけでなく、より楽しい会にしようと、従来から続いている「そば打ち体験試食会」に加えて、栗拾い、ゴルフ、温泉、夜の隠し芸大会が始まった。栗拾いは会員所有の栗畑を無料で開放していただきとっても感謝している。楽しい事は継続するもので、そのイベントは、熊本地震後までつづいた。

支部は沖縄から山口県と範囲が広く、交通の便も良くない、鹿児島会の会員が福岡での会合に日帰り出席するのは、物理的にも困難である。そうなると思えば皆さんが宿泊して楽しむイベントの数が増えてくるのは当然。そこで年間に2～3回宿泊しての情報交換会が定着してきた。

令和元年には平戸でグルメ三昧、歴史に触れ、豪快にクルーズ船も体験出来た。楽しくてますます面白くなった隠し芸大会で大いに盛り上がったのはいうまでもない。

12月には長崎市内で百万ドルの夜景を楽しむ会を計画している。



最近のスマートフォンの使用勝手は海外においても特段に良くなってきた。かつては、

日本で購入した端末ではWiFiのある場所であればメールも検索もできない状況にあったが、最近はその国に適合したSIMカードに入れ替えるだけで24時間ネット通信ができるように進化している。マイレージを貯めて格安で世界旅行をした際、駅からホテルまで短い距離ではあるが初めての場所、右も左も方角も分からない、暗くなって雨まで降りだすと、ますます分からない、そういう場面に何度か遭遇したが、頼りになったのが「グーグルマップ」。アイコンをタップした直後は動きにやや不正確な表示が出たこともあったが7か国で、ほぼ完璧に案内してくれた。到着地点と出発地点をうまく入力すると列車バスの乗り換え時刻、歩行も加えてその所要時間まで案内した上でその旨地図上に表示してくれる。



サントリーニ島

あの時のように、飛行場に迎えが来ていなくて泣きたいくらいに不安に駆られるようなことは一切なくなった。情報収集の技術が格段に進化しており、益々海外でのステイあるいは旅行が楽になってきている。

残された人生南国暮らしの会の中で、軸足は日本だが可能な限りステイや旅行を行って楽しくすごしていきたいものである。



## クアラルンプールの昔と今

クアラルンプール支部 前支部長 No.1822 酒田 充

### 「次々と立ち並ぶマンション」

クアラルンプールの昔と今をロングステイビザ（MM2H プログラム）の立場から比較するといろいろなことが見えてきます。その中でもマンション建設は著しく増えてきました。

私が移住した2008年4月はTTDI（タマン・ツウン・ドクター・イスマイル）では5つしかありませんでしたが、今では倍以上建ってきています。当時は外国人は50万リングット以上、その後2014年からは100万リングット以上に購入資金が引き上げられました。

当地のマンションは、日本と違ってセキュリティがしっかりしていて24時間ガードマンが配置されておりプール、ジム、テニスコート等が併設されています。

日本人が住むところはモントキアラ、TTDI、タマンデサ、ブキトジャル、クヤチアイラマあたりに多くの人は住んでいます。



家賃は2800リングットから3800リングットが多いと思います。

中には購入した人もいます。購入した場合は自分のものですから自由自在に部屋作りを楽しむことができます。筆者もマンション購入した一人でリノベーションに精を出したことが懐かしいです。



### 「建設ラッシュのショッピングモール」

このマンション建設と並行してショッピングモール建設があります。いくつもの商業施設がより結集してショッピングモールを形成します。その多くが有名なショップですが、日本の「イオン」、「ユニクロ」、「ダイソウ」、「正直屋」等々が参画しています。こうした事象は5～6年前からで一段と日本食材と日本食がより安易に手に入るようになってきたといえるようになってきました。

また、「一風堂」、「武蔵」、「山頭火」、「山小屋」等のラーメン屋が多くなってきました。筆者もラーメン党なのでうれしい限りでたまに食べに行っていました。

### 「念願のMRT開業」

もう一つ上げておきたいと思います。それは、2017年7月に完成したMRT大量高速

輸送システムです。MRT 一号線は首都圏を北西のセランゴール州スガイブローから南東セランゴール州カジャンまで全長 51 キロ約 86 分です。これには三菱重工業は軌道設備一式、明電舎は起電および配電設備一式を受注。駅構内のエスカレーターや動く歩道の設計、供給などは東芝エレベーターの関連会社などが担いました。

MRT の開通と各駅と近隣エリアをつなぐバス路線も 1 リンギットで運行しておりとても便利です。MRT は更に第 2 弾の 2021 年オープンを目指して今急ピッチで工事が進んでいます。

MRT の完成によって MRT の完成によって朝夕の通勤の改善となっていけば良いと思います。

### 「画期的な政権移譲」

そして何より変わったことといえば政権移動あったことでしょう。マレーシアの政権は 1957 年の独立から一貫して統一マレー人国民組織 (UMNO) が担ってきましたが、昨

年 5 月のマレーシア総選挙によって 93 歳のマハティール・モハマド氏が率いる野党の希望連盟が連邦議会下院の過半数を制して同国史上初の政権交代が誕生しました。ナジブ前首相が率いる統一マレー人国民組織は政権に対する長年の奢りと汚職の批判から脱却できなかった言えます。

今後はマハティール・モハマド首相のもとでマニフェストの着実な実践などが求められています。



## チェンマイ ミニ「今昔物語」

チェンマイ支部 前支部長 No.909 鈴木通弘

11 月のチェンマイは雨期の終りを告げる豪雨が時折降る以外は好天続きで空気も乾いていて非常に過ごしやすい。トップシーズン前なので南の会のロングステイメンバーもほとんどいない。

そんな折、初代チェンマイ支部長の伊澤豊さんがおみえになったので、急遽ミニサロン会が中華料理の名店「ジアトンヘン」で開催された。(2019 年 11 月 15 日 参加 12 名)

伊澤さんの数々のエピソードをちりばめた 20 年近いチェンマイ生活の話に大いに盛り上がりました。

### ○チェンマイのレストラン事情

タイ料理・中華・イタリアン・海鮮料理等国际観光都市に恥じない種々の料理店が軒を連ねている。同氏が初めて当地へ来た頃は日本料理店は殆どなく、日本食探しに苦労したとのこと。ほどなくして日本食ブームが起こ



り、今ではすし店を中心に激増。リーズナブルな価格で日本の味が楽しめるのはうれしい限りです。

## ○ゴルフコンペ

10数年前のチェンマイでは南の会の会員も少なくサロン会も不定期にしか無く、多く集まっても20名程度で、会員同士の懇親には不十分でした。同氏の発案で試しにゴルフコンペを実施したところ、これが大当たり。予期していた以上の成果が出ました。1ラウンドの総費用が日本円換算4千円程度、街の中心地から車で20分足らず。車（ソンテ）もみんなシエア出来ますから超安価です。プレイ終了後の会食は懇親と連絡会を兼ねたものとなりました。

更にうれしいことにはご婦人の参加が増えたことです。週1回から始まったコンペは今ではトップシーズンで週2～4回にもなっています。「ゴルフをするならチェンマイへ」のイメージが人気のロングステイ先として定着しています。ただ忘れてならないのはこの陰でゴルフ場の予約、車の手配等会員の便宜を絶えずはかっている人々がいることです。

○年々 歳々 花相似  
年々 歳々 人不同

本年（2020年）南の会は20周年を迎えます。10年前にはどんな人がいたかなあと懐かしみ10年後にはどんな人に会えるかなあと楽しみが湧いてきます。

以上

追伸 チェンマイ「話のネタ」添付

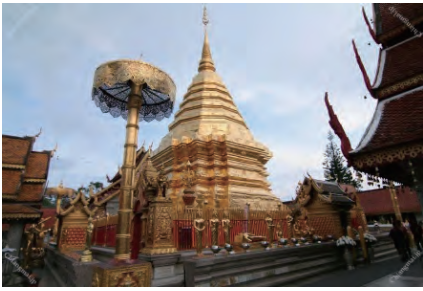
## チェンマイ「話のネタ」

(単位 パーツ)

		2010年頃	2018～'19年	2030年予想	備考
物価	ソンテ(市内)	15	20	40	2019/10頃より30Bへ
	シンハ330mL缶ビール		35		コンビニ店頭価格
	為替 1パーツ	2.77円	3.40-3.50円		
	タイ1人当たりGDP	5175 <sup>ドル</sup>	2018年 7446 <sup>ドル</sup>		北部タイは平均より低い
	日本1人当たりGDP	44674	2018年9304		ドル円為替により変動
人口	タイ全体	6669万人	6940万人	6834万人	2020年頃より漸減傾向
	チェンマイ市	14万人前後	13万人前後		県人口2018年 165万人
	在留者届け人数	3277人	2015年3733人		総領事館へ3か月以上届け者数
南の会	チェンマイ在留者数		81組-120人		1月在留者数
	日本総会員組数		489組		
平均年齢	日本人 男性(歳)	79.64	81.09	81.95	タイ、日本より約10歳低い
	女性(歳)	86.39	87.26	88.68	
ゴルフ	ゲスト料金(グリーン+キャデイ+チップ)		2018～'19年キャデイフイ/チップ 各300		
	ランナー	900	1150		
	グリーンパレークラス	1500	1800-2100		

## チェンマイ:ロングステイ及び訪問の手引き

ML:週刊サワディーからの抜粋 チェンマイ支部 元支部長 No.558 伊澤 豊



①



②



③

チェンマイに来たら一番に関わりが出るのが上図の①「ワット ドイ ステープ」と②「ソンテウ」③「トゥクトゥク」・・・今日はこの三つについて話しましょう。

### ① 「ワット ドイ ステープ」

(正式には「ワット プラタート ドイ ステープ」):「ワット」とは「お寺」、「ドイ」は「山」のこと…よって「ワット ドイ ステープ」は「ステープ山寺」ということ。この山はチェンマイ市に接して西側にそびえる海拔1080mの山で、その山頂にこのお寺がある。このお寺の由来は、昔ある高僧が仏教を広めべくインドから仏舎利(お釈迦さまの遺骨)を持参し、街中のお寺「ワット スアンドク」に納めようとしたところこれが二つに割れたため、あと半分を象に乗せドイ ステープを登っていた。ところが山頂辺りで象がぼったり倒れ絶命…よって此処を仏舎利を納める場所と決め(それが今の「ワット」のある所)1383年に当時のクーナ王が「ワット」を建立した。

このお寺の中心部に巨大な金ぴかで黄金のパゴダがあり、チェンマイ人は外国人と見ると「ワット ドイ ステープへ行ったか」と聞いてくる。「行ってきたよ」と答えると嬉しげ「まだだ」と言うと丁寧に行き方を教え始める。ことほどさように信仰深いチェンマイの人達にとって「ワット ドイ ステープ」は自慢の聖なる山なのだ。よって私たちもチェ

ンマイに来たら一番に此処を参拝したいもの…そうすれば在チェ中の安全は保障される? なお此処へ行くには、この山麓にある動物園の入り口前に「ワットドイステープ行き」のソンテが常に数台たむろしているのでこれに乗るとよい。

※このお寺の東側に展望台があり、チェンマイ市街や空港を見下ろせるだけでなく大チェンマイ県を俯瞰出来、ぐるりを取り巻いている山脈を遠望することによりチェンマイ県が大盆地であることがよく分る。

### ② 「ソンテウ」(通称「ソンテ」)

日本にはない乗り物で三輪の「乗合タクシー」とでも言おうか…車体は営業場所によって色分けされており、市内を走っている車は赤、郊外は行先によって青、白、黄色に分かれている。街中を走っている赤い「ソンテ」は流しの車でその数は非常に多く、街じゅうの至る所をミズスマシの如く精力的に走り回っており、手を挙げさえすればどこでも止まってくれ行く先も何処へでもOKで自宅の庭先へすら行ってくれることがある。料金は30バーツで、料金の支払いは客が車の外に出て運転手の所へ行き手渡す。面白いのは時折運転手の隣に妻が座っていることがあり、その場合は料金をこの女性に手渡す。こうして妻が乗っているのは運転手の亭主が浮気しないように監視してるんだとか…タイの男共は浮気っぽいと言われている…これにつ

いては、またの機会に扱うことにしましょう。

※パーツの円換算は 掛ける 3・1 パーツは約 3 円だと思えばよろしい。

### ◎「トゥクトゥク」

1960年代に日本で流行った「ダイハツミゼット」がタイで進化を遂げ、三輪タクシーとして現在タイのあちこちで活躍している。この車は走るときの音からトゥクトゥクという名がついたものと思われる。客席は大人二人掛けで、車体が小さいため小回りが利きスピーも出るので重宝されている…が料金は少々高く、乗る前に交渉するのが原則。ただしこのタクシーには「雲助タクシー」が居るとのうわさあり…つまり事前に交渉した値段と降りるときの値段が異なり、ふっかけられることがあるそうなので要注意!

皆さんは、これから「チェンマイ」といわず「外国」と関わりを持つようになる方が多いと思います。そこで関連して重要なのがパスポートとビザ。



「パスポートとビザの違いを説明してください」と言われ、即説明出来る人はスゴイと思います。(筆者は昔、なんとなくパスポートとビザをゲットし海外に出かけていた或る時、この二つの違いを説明しろと言われ、ぐとつまった苦い経験があります。) ということで今日は、この基本的な (a)パスポート・ビザ のことをはじめ (b)「下見の重要

性」(c)「訪チェ」のこと (d)「下見でやること」などを考えてみましょう。

### (a) パスポート・ビザ

- パスポート (表紙が黒いのもある) は…日本政府が「この人は日本人である」という証明書。発給は昔は外務省の出張所で行っていたが今は簡単になり、各都道府県の申請窓口 (市役所など) で。
- ビザは…渡航先の国が発給する「あなたはうちの国に滞在してOK」という許可証。タイのビザ発給は大使館 (東京) や領事館 (大阪・名古屋) で行う。タイに滞在する期間が30日以内は「ノービザ」と言ってビザは不要。滞在30日間以上に必要なタイビザは多岐にわたり非常に複雑なので、ここでの説明は無理。よって本人が直接タイ王国・大使館 (東京) または領事館 (大阪・名古屋) に直接問い合わせるようにして下さい。

### (b) 「下見」の重要性:

外国に来て右も左もわからんのに、いきなりロングステイに入るのは無謀と言えます。第一その地が自分に合ってるかどうか分らん状態でロングステイを始めると後悔することに…よって是非1ヵ月間ぐらいはじっくりと下見をしましょう。

### (c) 「訪チェ」のこと:

チェンマイに行く場合、上記のように 30日間以内の滞在の場合にはビザは不要。よって下見する場合、「ノービザ」の30日間以内の滞在で行えば十分で賢明。

### (d) 「下見でやること」:

- 南の会チェンマイ支部のサロン会に出席し支部長さんや役員さん達から、現地在住の方を紹介してもらい、アレコレ情報を得よう。

- 下に紹介する専門の業者に頼んでコンドミニアム（マンションのこと）を見学する。
- 頻繁に街中へ出てアチコチ歩いてみよう。
- タイ食を食べてみよう。  
初心者にお勧めのタイ食は、パッタイ（タイ焼きそば）・カオパット（タイ焼きめし）  
お勧めのタイ食はほかに山ほどあるが、それはまたの機会に…
- まずは一つだけ、大衆的で日本人に合うお勧めのタイ食レストランを紹介します。

場所：ドイステープ（山）に向かうチェンマイ市内最大の“ホワイケオ通り”の東端近くの、有名なオーキッド ホテルの手前100mにある店「レモン ツリー」（この裏に「ナコンピンコンド」という巨大マンションあり）

※此処にはたしか指差しメニューがあった筈。

※現地旅行社を3社紹介しておきます・・・それぞれに特長あり。

■ ミント トラベル：ホテル・コンドの下見や斡旋が得意

メールアドレス：cnxtour@yaoo.co.jp  
古江さん（通称…ジョンさん）

■ RANVEL TOUR：チェンマイ近郊のツアーが得意

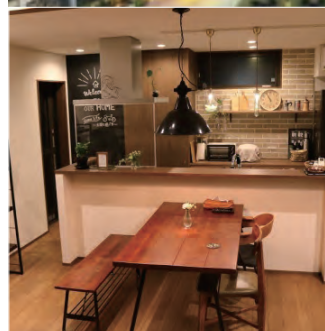
メールアドレス：ranvell@loxinfo.com  
城田さん

■ Nara Tour：タイ近隣国のツアーが得意

メールアドレス：nrtpm@loxinfo.co.th  
アライさん



或るホテル



コンドのキッチン

今日はチェンマイで宿泊する際のホテルやコンドミニアム（＝マンション）などについてお話することにしましょう。

**旅行者または長・短期滞在者向けの住まいとその特徴：**

- **ホテル**：旅行または短期滞在者向けで、自炊は厳禁、その代わりに朝食がついている。チェンマイは国際観光都市なので、ホテルはごまんとある。部屋には冷蔵庫が付いているが、自炊は厳禁なのでキッチンなどはない。だがさすがホテルだけあってロケーションの良い場所にあるものが多く、下見に適したものを旅行社等に頼んで、斡旋してもらうのがよろしかろう。
- **コンドミニアム（通称コンド…つまりマンションのこと）**：これはホテルとは違い長期滞在者向けのものである。ただしこれは並みから上級までランクがさまざままで付帯設備も多種多様だ。並みのクラスのコンドには冷蔵庫と電子レンジぐらいはあるがキッチンはない。キッチンのある上級といえどもコンロなどの光熱器具がないところが多く、入居者が自分で用意することになる。チェンマイは都市ガスがないので電気コンロが一般的。但

し市販のプロパンガスがあるので、販売店に頼めばボンベを配達してくれる。

面白いのは部屋の所有者：コンドによっては各部屋のオーナーが違うというところがある。これはコンドが完成した当時、個人が投機目的で部屋を購入し所有しているのが原因だ。よって同じ構造の部屋にも拘わらず家賃が異なるということが多々ある。これは各オーナーがそれぞれの考えで部屋の設備や装飾を行っているせい…つまり金の掛け方が異なるからである。という事などが多いので、下見の重要さがよく分かるというもの…

- アパート：いわゆる日本のアパートは皆無といってよさそう。但しチェンマイ大学周辺には学生向きの鉄筋8~10階建ての鉄筋アパートがるが、一般人向きではない。
- ゲストハウス：この宿は、大きなリュックを担ぎ世界各地を渡り歩くバックパッカー向けの安宿。殆どが一室で簡単なシャワーが付いているだけ。自炊の設備はなく殆どが外食だが…ゲストハウス屋には数件または十数件固まっている所があるので、入居者は此処で食事する。下二つ（アパートとゲストハウス）は、チェンマイを訪れる日本人にはあまり関係ない。

## チェンマイでの「外食」



和食・タイ食・洋食・中華食とごまんとあ

るので、会員さんがよく利用するもの二つだけにします…あしからず。

「せっかくチェンマイに来たんだからタイ食を食べろよ」と言う人がいます。が、なんてたって我々は日本人…いつのまにか目の色変えて、日本食堂を探しまくっている自分に愕然とするんじゃないでしょうか。ということで、本日、まずは日本食からまいることにしましょう。

### (a) 日本食屋さん

わが南の会々員さんたちがよく利用する店は「すし次郎」・「ムーンサバイ」・「ぼたん」が筆頭で、次いで「ごはん亭」・「つなみ」あたりじゃないでしょうか。そういえば「木村食堂」なんてのもありましたなあ。この際「忍者ラーメン」・「友達らーめん」も入れちゃいましょう。少しレベルを上げると、チェンマイヒルズというホテル内に「水仙亭」エアポートプラザ内に「善 (Zen)」というのもあります。東方のスーパーハイウェイ沿いに出来た巨大モール「セントラルホリデー」の中に幾つかある日本食堂も OK なんじゃないでしょうか…それはともかく上記の店は「日本食堂」なので、筆者が今さら詳しく説明するまでもないでしょう。一番良いのは、皆さんがチェンマイに着いたらサロン会等に出て先輩たちと知り合いになり、上記日本食堂に連れて行ってもらうこと…これに尽きます。

### (b) 中華料理 (飲茶…ヤムチャ) 屋さん

最も庶民的な中華料理…というよりぶっちゃけた話…人気抜群の「飲茶屋」さんを紹介しましょう。チェンマイ市の南部に有名な「Imperial Maeping Hotel (通称メーピンホテル)」があります。この前を南に延びる路地があり、それを200mほど行くと左手に平屋でうす汚い食べ物屋あり。昼時にいくと超満員で待ちぼうけを覚悟すべし…というのはユニークで安くて美味いから。店名は



「Toey Dimsum (トウイ デイムスム)」…何屋さんかというとなんと「飲茶屋」さん。客はまず店の前のガラスケース (中に蒸す前の飲茶がズラリと並んでいる) の前に立ち、その向こうに居る店員に指差しで品種を選び注文する…5種類ぐらい。客はテーブルにつき、蒸しあがるのを5~6分待つ間に、テーブルには店員がザルに入った新鮮な生野菜 (大抵チシャ) を配ってくれる。その間に客はギンギンに冷えたビールを注文しておく。やがて店員が蒸しあがった丸い蒸籠 (せいろ) を客数分5~10重ねを片手で担ぎテーブルに運んでくる。「待ちました!」とばかり客は各自で蒸籠を目の前に並べ小皿にたれを入れこれに花ガツオのようものをふりかけ、熱いシューマイ等を付けて食べる…これに冷えたビールが合ってもうたまらん! 誰かがつぶやいてたなあ…「アーもういつ死んでもええわ…」これで絞めて50パーツ (約150円) ほど (ビール代込み)。

※この店へ行ったら、帰りに店の名刺をもらっておこう。次回からソンの運ちゃんにこれを見せるだけで連れて行ってくれる。

### (c) チェンマイのビールについてひと言

筆者がチェンマイに来た2000年代初頭には、「シンハー (SINGHA) ビヤー」しかお眼にかからなかった。食堂に入りビールを注文したら冷えてない瓶ビールが来る…「??」とすかさず店員が、専用の小さなバケツタイプの氷入れに角砂糖型氷をいっぱい持ってきてくれる。どうするのかと周囲の人達を見るとまずグラスに氷を数個入れてからビールを注ぐ…真似してやってみたらなんといけるや オマヘンカイナ! 要するに当時タイにはまだ冷蔵庫が普及してないのが原因だと分かった。その頃の名残で、今でもビールに氷を入れて飲むのが当たり前…たとえビールが冷えていても…

※次にビールの種類だが、チェンマイでは次の三種類のようなのだ:

SINGHA (シンハ) Beer…これがチェンマイでは一番古い、次いで Chang (チャン) Beer、そして LEO (リーオ) Beer …日本人に一番人気は、日本の「スパードライ」に似た味の「Chang (チャン) Beer」…「ビヤ チャン!」と言って注文しよう。

### 旅支度

これまで提供してきたアドバイスで、チェンマイに関する予備知識が多少なりと出来たのではないかと思うので、いよいよ出かけるという想定で上記のようなテーマにしてみました。

下記は、1ヵ月以上の滞在を想定したものです。よって中身については、各自の滞在期間などに合わせて取捨選択してください。

### ◎貴重品

- ・パスポート ・航空券
- ・クレジットカード ・現金
- ・旅行傷害保険証書
- ・必要に応じて国際運転免許証 (自慢するわけですが筆者はタイの運転免許証保持)

### ◎常用薬 & 簡易医療品

- ・人によってさまざまなので省略しますが、案外役立つのが太田胃散や正露丸

### ◎一般携行品

- ・化粧品 ・洗面具 ・ヘアドライヤー
- ・洗剤少々 ・サングラス ・靴べら
- ・ある人は携帯用翻訳機 & 電池式蚊取り機
- ・日焼け止めクリーム (ゴルファーは特に)
- ・携帯用目覚まし時計 ・ウエストポーチ
- ・メモ帳 (VISA カードを紛失した時の連絡先を書いておく)

- ・ボールペン
- ・ガイドブックなど
- ・ナイロン袋（洗濯物やゴミ入れ用）
- ・現地行動用バッグ  
（手提げはダメ、デイバッグ又はリュック）
- ・折り畳み傘
- ・スニーカー
- ・薄手のセーター（機内又は現地で朝夕に冷えることがあるので）
- ・半そで半パンを各2~3着、長パンを1~2本ほど
- ・ソックス数足
- ・ステテコ（クレープと綿）上下を各2着…パジャマの代わりになる
- ・ブリーフを2~3着
- ・ホテルだけでなく機内でも冷えることがあるのでカーディガンを1着携帯

### ◎小物類

- ・ポケットティッシュ ・ウェットティッシュ
- ・輪ゴム ・つめ切り ・小さいハサミ
- ・携帯式簡易裁縫道具

### ◎旅の三種の神器

- ・ツッカケ：別名サンダル（ホテルやコンドにはスリッパの無い所が多いのでその代用になり、そのまま外出してもOKなので便利）
- ・ハンガー：洗濯屋でくれる針金またはプラスチックのあれを5本ぐらい、安宿の場合ハンガーそのものがない所あり
- ・ナイロンタオル：ホテルのバスルームには、背中を洗うタオルがないので…

### ◎ゴルフ用品一式：此处では省略

- ・ゴルフは、ゴルフプレイ必需品を各自で用意する

## 祝 南国暮らしの会設立20周年

ダバオ支部 支部長 No.1261 藤本晴久

南国暮らしの会設立20周年誠におめでとうございます。

月日の過ぎるのは早いものでこの前に設立16周年記念サロン会を開いたと思ったらもう20周年なんですね。私もダバオで生活して10数年がたちました。当初は初めての海外生活でもあり少し緊張もありワクワク感もあり、海と山に恵まれた場所ですので海辺の砂浜近くに住みヤシの木にハンモックをかけて（まるで会旗のデザインの様な場所）のんびりすごせたらと考えていました。実際に住んでみるとなかなかそんな場所は町中になくアパートで生活しております。それでも近くに綺麗な砂浜もあり車で1時間も走れば涼しい高原にも行け十分満足しています。

会員の方々も当初は”海外の暮らしはこんな形だと”と決められて来られる方がおられ

ますが数年たつと各自スタイルを見つけられテニス、ゴルフ、ジム通いなどで汗を流される方、ボランティアに喜びを感じてすごされる方など千差万別です。個々の生活の中に日本とは異なる環境で戸惑いながら自分のリズムをお作りになられ楽しまれている様に感じます。私は以前東南アジアを中心に会社の休みを利用して旅をしていました。旅の情報はバック旅行でもバックパックスタイルでも色々な情報がインターネットで容易にとれる時代になりハードルも低くなくなった気がします。ただ“暮らす”となると長期ビザだとか電気代の支払い方法とか面倒な事が少し増えますし、なかなかそこまでの情報を得る事は簡単ではありません。そんな少し面倒な事を乗り越えると旅行では味わえないその国の習慣とか人々の考え方に触れます。その中

には日本とかなり異なり首を傾げる事や本来日本人が失った昔の良いところを思い出すことができます。また暮らすとは期間で済むのではなくそれぞれの気持ちだと思います。少ない期間でもその国で暮らそうと思えば見えてくるものも違ってくるのでは。異国に暮らし、その国の人々と触れて日本では味わえ

ない非日常を楽しむプチインターナショナルですね。“南国暮らしの会”と名前をつけられた先輩の気持ちのなかにこんな気持ちがあったように思われます。当会が今後30年、40年と続く事を願いますし今まで当会にご尽力頂きました理事長様、役員の方々に深く感謝申し上げます。

## 祝 南国暮らしの会設立20周年

ハワイ支部 支部長 No.1278 外池一子

南国暮らしの会 20周年、おめでとうございます。

私が前支部長の塩川亨さんから支部長を引き継いだのは2018年4月で、今年が2年目になります。ハワイ支部は長期滞在の会員が私たち夫婦を除いては(ほとんど)いらっしゃらないので、他の海外支部と異なり毎年6月に活動が集中しています。

6月の主な支部活動は例年、ゴルフコンペとサロン会です。サロン会については、去年までゴルフコンペ後のパーティーを兼ねて開いていたものを、ゴルフをされない会員もいらっしゃるるので、今年はコンペとは切り離して行い好評でした。



また、この他にもワイキキにある Condominium に滞在されている方の親睦会であるパニヤン会のイベントのウェルカム・パーティー、ゴルフコンペ、フェアウェル・パーティーにも、私を含めてたくさんのメンバー

が参加され楽しんでおられます。また、早朝テニスを楽しんでおられるメンバーも多くいらっしゃいます。

ハワイ支部の6月の長期・短期滞在者数は漸減傾向にあるようです。南の会の会員総数が減っているのも、これはやむをえないことかもしれません。また、ハワイの事情として、宿泊費や物価の値上がりもその原因の一つかもしれません。ホノルル市が今年8月から始めたリゾート地区以外での住宅の短期貸し(30日未満)の取り締まりと処罰の厳格化の影響も心配です。



ハワイの高い滞在費については、何かいい代替案があるといいのですが、ワイキキを離れるとレンタカーが必要になるため、なかなか妙案がありません。また、ゴルフについても、ワイキキから至近のアラワイゴルフコース以外は、アクセスや料金がネックで、コンペ以外ではメンバーのみなさまに気軽にお勧めできない状況です。

また、日本では気候がいい春と秋が短くなっているように思われますが、雨季と乾季の2シーズンしかないハワイでも雨季が長く

なり、乾季の暑さが増していると感じます。乾季が暑くなっているのは貿易風が吹かない日数が増えていることが大きな要因です。昔はハワイの家にはエアコンはあまりありませんでしたが、今や必需品です。(エアコンがない我が家では、日中暑さに耐えられない時は図書館に避難します!)

このようにいろいろ難しいことがあるハワイでのロングステイですが、それでも青い空の下プレーするゴルフやテニスは爽快ですし、新しいレストランがどんどんできるので食べ歩きをしたり、心地よい風を感じながら手料理をバルコニーで食べたり、さまざまな無料のイベントに足を運んだりとハワイの楽しみ方はたくさんあります。

私が住んでいるのはワイキキではなく、ハナウマ湾やシーライフパークに近いハワイカイというエリアです。そのため、支部としての活動については、前支部長の塩川亨さんや現関東甲信越支部長の肥後信彦さん、長年ゴルフコンペの幹事を務めてくださっている関

久生さんが実務を担ってくださっています。私としては、今後もワイキキに滞在されている会員のみなさまのお力を借りながら、みなさまが楽しめる地元のイベントの情報などを集めて提供して支部活動を盛り上げていきたいと思っています。また、6月以外の時期にハワイにいらっしゃる会員のみなさまには、メール中心になりますが、できるだけ質問などにはお答えできるようにしたいと思っています。

みなさま、是非6月のハワイでのロングステイをご検討ください!



### ブラジル サンパウロとリオのカーニバル

東海支部 No.877 梶野祥司

サンパウロのカーニバルの山車（だし）の上、私はサンバのステップを踏んでいた。

初めてのブラジル、サンパウロに着いて三日目だった。

その日のお昼、私はカーニバルの化粧をするため現地のショッピングモールにDAISOを見つけ、化粧道具を買い込んだ。カーニバルでは派手な衣装に身を包むことになるのだが、肌が黄色の東洋人の私が普通の顔さらし踊っていても様にはならない。アイブロウ、アイシャドウ、アイライン、付けまつ毛、ファンデーション、ほお紅、リップなど色とりどりにそろえてみる。特にアイシャドウは赤、青、紫、金を買い込んだ。夕方本番前には美容のプロに化粧をしてもらうよう頼みであるのだが、その前にどんな化粧がいいか午後自分で試し塗りをしてみた。ファンデーションは肌色と白色を買った。どうせなら白色のが面白いと思い塗ってみた。そこに赤のほう紅を差してみたら志村けんのバカ殿様になった。やり過ぎやり過ぎ、色気なし。ファンデーションは肌色にすることにした。試し塗りを終え、夕方にプロの美容スタッフに本番の化粧をもらった時にはまつ毛も付け、今度はすっかりゲイの顔に仕上がっていた。バカ殿よりはマシ。



気持ちが盛り上がってきた。

次は本番で着る衣装の試着。金のタイツに、背中には無数の金の天使の羽根、シーザーのような大きないかつい金色の肩、緑の長靴、金のハットは大きな緑の羽根がてっぺんから生えている。裸になり上から引っ掛けるように着る金と緑の衣装、胸の所には開拓時代の奴隷の歪んだ顔がゴムで作られデコレーションされている。意味は複雑みたいだが、とにかく派手！

ここでブラジルのカーニバルについて話をしておく。

昔ポルトガル人がブラジルに侵略し物資を略奪している頃、先住民や黒人を奴隷とし働かせていた。年月が経ち、その奴隷達がもっと自由を求めてくるようになり、領主のポルトガル人は彼らの欲求不満や暴動を抑えるため息抜きとして、キリストの復活を記念したイースターがやってくる前の週の週末だけ一年に一度、自由に歌って踊っていいことにした。それがカーニバルの始まりだ。

カーニバルはブラジル各地各都市で催されるが、かつて首都であったリオデジャネイロ（今の首都はブラジリア）のいわゆる“リオのカーニバル”が有名だ。ただし、世界第二位の巨大人口を持つサンパウロ（因みに一位はメキシコシティ）のカーニバルも最近負けてはいない。都市の資金力にものを言わせ甲乙つけがたいものになっている。

この二つがブラジルでは二大カーニバルだ。カーニバルは四日間行なわれ、最初の二日間は一軍の14チーム、後の二日間は二軍の14チームがパレードする。一日7チームずつ四日間に渡って競い合う。1チームは大体二千人から三千人、最大四千人のチームもあるといえれば規模を分かっていただけだろう。1チームは毎年それぞれテーマを掲げ、山車を6～7台

仕立てる。一日に出場するのは7チームなので、巨大な山車が一日40、50台、それが4日分、200台位の山車を一年かけてこの週末のカーニバルの為だけに作る。



パレードをするカーニバル会場は、一年に一回しか使われない。それはパレードのためだけに作られた会場で、観客12万人（リオは18万人）を収容する。グラウンドの幅は15m、距離は1kmには届かないが700mの直線の両脇を、野球スタジアムのような観客席が、パレードする道を挟んで直線にまっすぐ伸びていると思ってもらっていい。チームの山車たちは、両側にそびえたつ椅子に座る観客の間を、カーニバル会場の端からもう一方の端まで練り歩く。また、その山車と山車の間にはそれぞれ何百人達が地上で、強烈な衣装に身を包みサンバに踊り狂いながら進む。あるものは金粉、あるものは緑、黄、青、赤、紫、黒、あるものは裸、ほとんどの踊り手には羽根が付いている。それぞれのチームの先頭には、ムラータと呼ばれる顔も体も超絶世ミスユニバース級の二三人の女たちがタスキを掛けて腰をビブラートさせながら美しいサンバを披露し、チームを先導していく。ムラータとは、支配者だったポルトガル人と奴隷だった黒人との間に生まれた混血の女の人のこと。平和の象徴としてカーニバルの一つの主役なのだ。カーニバル会場を抜けるパレードの時間は1チーム1時間20分間が与えられ、少しでもその時間を超えたら減点だ。

19世紀中頃このパレードが始まった際に、衣装はスカートが広がっているような中世の白人が

着るようなドレスで気取って上品にパレードしていたが、ブラジルに住んでいた先住民に敬意を表しそのインディアン衣装文化を取り入れ、50年程前から色とりどりの羽根を身につけた派手派手な衣装で踊るパレードになった。

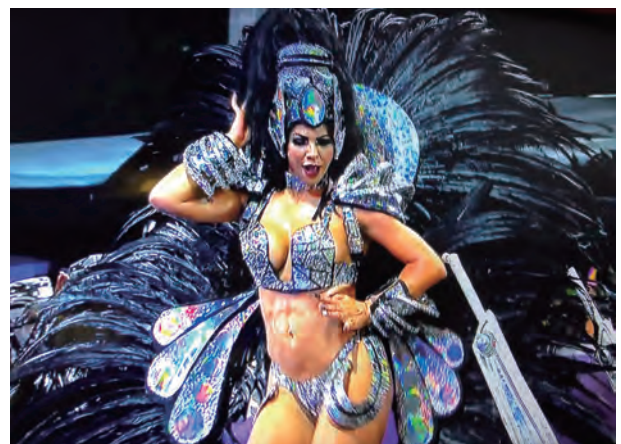
ブラジルのカーニバルは様々な文化、歴史、思いがミックスされている。

一軍と二軍に分けて四日間のパレードが終わった二三日後、厳正な審査で得点がつけられ、一軍14チームの下位2チームと二軍14チームの上位2チームが翌年入れ替わるシステムがある。結構真剣勝負だ。毎年日本でもサッカーのチームがシーズンの終わりに入れ替え制があるのと仕組みは同じ。

さらに、一軍の上位5位迄に選ばれたチームは、次の週末に、チャンピオンズパレードとしてもう一度、同じパレード会場でサンバの踊りと山車を披露する権利が与えられる。いわゆる凱旋パレードだ。そして、そのパレードの収入を上位5チームで分け合う。チームの財政も絡む。だから皆真剣だ。

カーニバルとは競争のあるプロのスポーツだった。一軍の優勝チームへの賞金は3億円。

一チームごとの山車や衣装を作る予算が3億円、優勝しても3億円。皆、赤字垂れ流しでも、ただ楽しむことを優先にサンバを踊る。ここがすごい。



パレードは夜の10時に始まり、朝6時頃出場7チーム目のパレードが終わる。徹夜で夜中楽しむ。サンパウロもリオもシステムは同じ。ただ、

サンパウロは一軍のパレードを金曜日と土曜日にかけて行ない、リオデジャネイロはその翌日の日曜日と月曜日にかけて行われる。二大都市は二日ずらして開催される。システムチックだ。

話を戻す。

プロにお化粧をしてもらい、衣装を持って、カーニバルに出場する人達のため待機していた専用バスに乗り込む。

私の参加させてもらったチームは一軍のトゥクルビというチーム、初日の7チーム中4番目に始まる。私達を乗せたバスはカーニバルの始まる夜の10時位に会場近くに到着した。バスから降りて私達の乗る山車の所まで歩く。

四日間で200台以上の出番を待つ山車は、会場横に混沌とそれでも整然と出場順に並べられている。山車達がひしめく控え場の薄暗い異様な光景。華やかで明るいカーニバル会場とは対照的だ。

色とりどりで形も様々な山車と一緒に、これまた自分達の出場出番を待ち続ける絢爛豪華な衣装を身にまとった何千何万の踊り子達の間をかいぐり、自分達のチームの山車の場所までなんとかたどり着いた。誘導してくれたトゥクルビのチームのスタッフ達からお前の乗る山車はこれだと、教えられる。そこには、幅8m長さ12m高さ8m(もっとかもしれない)の巨大な山車が鎮座していた。一つ一つの山車がいちいちでかい。

その山車に衣装を着て左サイドの最後尾に登れという。そして私の乗る山車はチームの最後尾らしい。その最後尾の山車の最後尾に乗れるということは、チームの最後のダンサーとなるのだ。初心者の東洋人、目立たない所においてくれたとは思いますが、しんがりのしんがり、返って目立っちゃうんじゃないの？

他のダンサーはほとんどがブラジル在住、ブラジル人。最低でも一ヶ月前から週一回以上の合同練習をこなし、チームのパレードの間繰り返し流されるサンバの歌とダンスをマスターしてきた人達に混じって、私はブラジル在住三日、ぶっ

つけ本番で歌えないサンバ曲を歌い、サンバダンスを山車の上でパレード本番中披露しなければならない。

山車に登ってみたら結構高い。いろんな意味で足がすくむ。

楽しみでしかなかった感情だったが、だんだん後悔の念が幅をきかせ始める

プロやノンプロ達のダンサー達に混じって本当に乗り切れるのか。

三階建ての観客席が両脇にそびえ立つと真ん中を、踊ったことのないサンバステップを平気な顔して1時間と20分間踊りきれるのか。しかも歌いながら踊らなくてはならない。

歌はポルトガル語で、音楽ファイルをメールで一ヶ月前に送ってもらったが、一回さわりだけ聞いて諦めた。歌えるわけない。それ以来そのファイルは一度も開かなかった。



PM10時に第一組目のチームが始まり、第四組目の私達の出番はAM2時位になるという。時間まですべてが規格外。異様な地響きのような、今、会場で出場しているチームのサンバの怒号を遠くに聴きながらの、ひたすら、変な気持ちの待ち時間。自分たちの山車の上で待ち続ける時間は長く、これから始まる未知の世界への期待と困惑。はるか先の会場の方から時折起こるゴーっというような地響きのような音がまた気持ちを惑わす。

“もう帰りたい”と、いや楽しもう“、もうごっちょごちゃの心境だ。

いよいよ山車は二十人位の押し手によって動

き出す。山車は人力で動かす。

あららら、始まっちゃう。もう、生贄（いけにえ）の世界。こうなったら楽しまない！それより生きて帰れるかしら。

アドバイスされたのは、サンバを聞いて、心の声に耳を傾け、自由に踊ること。歌は歌えないのなら口パクをしていること。口を動かさず、口を閉じていると目立つのでよせ。ノルマはその2点。

ま、とりあえずサンバをよーく耳で聞いて踊ろう。ただの口パクだけするのは難しいので、ジュリーの危険な二人、ブルーハーツのトレントレインなどテンポが良く暗記している曲を大声で歌おう。どうせ日本語の歌は周りに分からない。どうせ大音量で個人の歌など聞こえない。そして何よりこのとんでもない状況を楽しもう。楽しまないで、この人生に価値があるの？と、どこかに書いてあったような気がする。

さあ、前の方で私達のチームトゥクルビの1台目の山車が会場に入ったみたい。

私はチームの最後の6台目の山車の上。そろりそろりと会場に近寄っていく。暗い控え場からだんだん会場の中に入り、自分が白昼の元にさらされる。踊りも歌もできないのに。足がすくむ。イヤッて言って泣いてしゃがみこめない。私達の山車は強烈なライトの歓迎を受け、ついに会場に入った。沢田研二を歌いながら、軽快なサンバに身体をゆだねた。両脇を取り囲む全長700m12万人の観客の中を山車は進む。

時々止まりながら、そろりそろりと山車は進む。もう無我夢中。私の踊りはただの足踏みに近いという意見もあるにはあるが、自分では大音響のサンバにノリノリで華麗なステップ。全員歌いながら踊るというスタイルなのに、つつい踊っていると口が止まってしまう。やってみて、その気持ち分かるから。サンバに合わせて沢田研二を歌い続けるという困難を乗り越えながら、歌って踊った。

だんだん慣れてきて快感迄は届いていないが、確かな手ごたえが湧いてきた。ここでは踊

り手の一人一人が主役になるのだ。踊る皆がスターだった。12万人の観客の前で。あー、嬉しい。生きてるんだ。喜びなんだ。ありがとう。踊りながらかみしめる。

時折、最前列の観客とかが目が合う。こちらは東洋顔のおっちゃんが化粧、向こうも戸惑うよね。



綺麗でもない、可愛くもない、ちょっと危ないおかまちゃんと目が合っちゃったといった表情が読み取れる。

目が合った観客にはたまにいたずらでウインクを差し上げる。すると観客の表情が面白い。返しが分からず、はにかんで目を逸らすお兄さん。照れて下を向きながら少し手を挙げてくれる中高年。えっという表情で隣に報告しみんなで大ハハと笑って指刺してくる女子高生、女子高生の反応は世界共通なんだ。うっとりしてくれる綺麗な方はいなかったと思う。そんな人間ウォッチングと多少の敗北感をよそにサンバは続く。

パレード最高！迄はいかないまでも楽しめた。後、二三次やれば最高になりそうな予感。又、機会があればだが。そうこうしているうちに1時間と20分が過ぎ、私達のチームの持ち時間は終了。

首尾よく最終ゲートに滑り込み、安堵と、えっもう終わり？の気持ちが入り乱れ、パレードは終



わった。

みんな出場者は一緒に戦った戦士同士。

山車から降り笑顔で写真を撮りまくってダラダラしたのも束の間、次のチームがやってくるので私達のチームの用意されたバスに衣装ごと乗り込む。

バスがそれぞれのホテルに着く頃にはもう空は白んでくる。

終わったー。やりきった。

ちなみに数日後審査会があり、私達のチームトックルビは一軍14チームの中の13位、入れ替え制により来年は二軍に落ちたとのこと。

俺のステップは関係ない。

次の日はサンパウロカーニバル二日目でカマロッテという十人位のグループが入る部屋で観客としてパレードを眺めた。部屋では飲んで笑っ

て踊りまくった。昨日と違って12万人の観客には観られていない。自由にめちゃくちゃに心ゆくまで踊った。沢田研二を口ずさむ必要もない。

二日連続の徹夜の次の日は不覚にも15時間寝た。

次の週末はリオデジャネイロに移り、リオのカーニバル5位までに入った上位だけのチームによるチャンピオンズパレードを観賞した。



## モロッコの旅

関東甲信越支部 No.1763 小西隆司

初めに

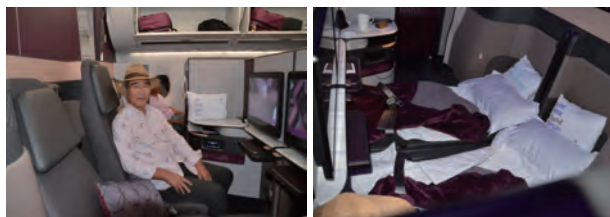
2019年6月12日【水】から6月21日【金】迄、モロッコを旅しました。同行者は太っ腹の家内、頼りがいのある二女の3人です。

モロッコは日本より少し広い面積が広く、中央にアトラス山脈が横たわっています。6月でも頂上付近には残雪が遠景でも視認できました。

砂漠に点在するオアシスには、この山の麓から地下水道を通して延々と運ばれて来ます。途中で井戸がありますが、上から見るとかなり深い所を通っています。勿論今も現役です。

旅の雑誌で水は貴重だと書いてあり、家内はかなりの数のペットボトルを持参しましたが、休憩施設では地下水が豊富に流れ、水のペットボトルも買う事が出来、それほど水で困る事はありませんでした。

6月11日夜に家を出て、羽田空港を日付が変わる少し前に出発です。カタール航空で中東カタールへ飛び、ドーハ空港で娘と合流して3人でカサ・ブランカへ、



Qスイートの座席通常の状態

Qスイート座席を倒した状態

これからモロッコ珍道中が始まります。

カタール航空は昨年 air line of the year を獲得したQスイートがあります。

家内がとにかくこれに乗りたくてカタール航空を選びました。座席は両サイドに1席、中央に2席の横4列です。天井までではありませんがドアがあり、ドアを閉めると個室状態になります。

中央の2席で寝る時は、席と席の間に専用のマットを敷いて、ダブルベッドの様になります。シーツを敷いてくれて、パジャマと枕も持って来てくれます。

食事時はかなり広めのテーブルに、テーブルクロスを掛け、首にエプロン迄かけてくれました。空飛ぶホテルで食事をしている感じですよ。

カサ・ブランカ空港から外に出ると、途端にアフリカの暑い風の洗礼を受けます。初めての場所ですが懐かしく感じます。映画「カサ・ブランカ」の影響でしょうか。50年以上も昔の映画ですが、蟻螂の様なニヒルなハンフリーボガード扮するリックと、神々しさに美しかったイングリッドバーグマン扮するイルザの映画で、「君の瞳に乾杯!」等、断片的ですが気障な名セリフを思い出しました。

カサ・ブランカではガイドさんが待っていました、ここから車で30分ほど走り北東のカサ・ボヤジール駅に行きます。

ガイドさんの英語は酷い英語で良く聞き取れません。

酷いと言いましたが、自分の英語力をすっかり箱に仕舞って棚に上げ、金庫に入れて、鍵返かけて相手が酷いと言っているの、言われた方は大変な迷惑でしょうが・・・。

カサ・ボヤジュール駅のコンコースから見た線路風景は、ベルナルビュー

フェの絵の様でした。空が少し曇っていたので画風と一致したのかも知れません。カサ・ボヤジュールからフェズ迄は、コンパートメント付き1等車に乗

りました。プラットフォームはかなり低く、電車にはステップがついています。家族のスーツケースを車内に運ぶのは私の役目ですが、重いので少し時間が

かかります。その間何とも言えない匂い。乗車すると直ぐトイレがあります、

ドアが開いていたので当然中が見えます。水洗式のトイレですが、匂いがき

つく閉口しました。これで1等車かよ!

これから4時間程乗車するかと思うとぞっとしましたが、コンパートメントは6人用ですが、エアコンもあり快適です。ドアに遮られ、匂いはさすがにここまで追ってきません。今日は我々3人だけです。

ここから電車で今夜の宿泊地フェズに着いたときは、既に現地時間で21時過ぎて丸々1日以上を移動に費やしました。フェズ駅に着くと迎える車が来ており、ガイドのムハンマド【モハメド】さんが待っておりました。運転手は同じ名前のムハンマドさん。今回はこの人達と殆ど一緒に、車の移動距離は優に1,500kmを超えました。

楽しい旅でした。アラブ人運転手のムハンマドさんは、小太りでとにかく良く笑い、陽気な方です。既に暗くなった道を走ります。車窓から見ると町に入る前は道路にゴミはなく綺麗な印象ですが、町に入ると途端にゴミが目につきます。22時頃ホテルへ到着してチェックインをすると、ホテルのレストランは23時には閉まってしまうと言う。鍵も受け取らず、まずは腹ごしらえとレストランに駆け込みました。

遅い夕食です、パンと、豆のスープ、ハムを少し取り、まずはビールで乾杯。ビールはフラッグスベシャルと言う青色の小瓶です。

何と!このビールは現金で払えと言う。モロッコに着いたばかりでこんな事を言われた。しかもホテルで!幸い空港で換金していたので、支払いは出来たが。よく考えればアルコールの事だ、イスラムの教義に反する行為は別扱いかたと渋々納得。長い一日が暮れました。いや暮れなかった。部屋のシャワーは温水に近い。浴びていると寒く、しかも部屋のクーラーは効かず暑い。それでも疲れが出たのか泥睡。これでやっと長～い1日が終わりました。

**6月13日【金】**今日は青い街シャウエンに行きました。朝9時の出発前に、昨日のシャワーの件はしっ

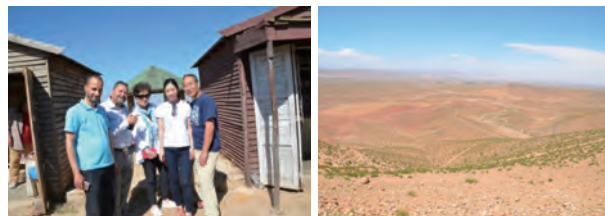
かりホテルにクレームを付けました。フロントでは、聞いているのか聞こえていないのか何とも言えない対応振りでした。

都合の悪い時は英語が分からないような素振りなのか、暑い国に来て熱いシャワーを期待するほうが場違いだ!と言っているようでもあります。

意外に朝は気温が低く、Tシャツ1枚羽織って外に出て様子を見ましたが、かなり冷え込んでいました。結局ダウンジャケットを着ての出発となりました。運転手のムハンマドさんも皮のジャンパーを着ています。満面ニコニコ顔で「良く眠れた?」と聞いてきます。親しみやすさを感じる方です。

シャウエン迄は休憩を入れて約4時間の行程でしたが、運転手のムハンマドさんはこの間喋りっぱなしです。良く顎が疲れないなと感心する事しきり。

何処でも一緒に写真を撮ろうと言う。どこでも一緒に写真を撮るので、これは「奥さんへの証拠写真?」と聞くと、笑いながら「そうだ!」と言っていた。



2人のムハンマドさん

こんな所を何百kmも走ります

道の両側には夾竹桃に似た花が所々に見え隠れしていました。良く観察すると谷の低い位置に川が流れています。夾竹桃はこのあたりに群生しているようです。ピンクの鮮やかな色です。岩が張り出す黄土色の土地は肥えているとは思えませんが、狭い土地を利用してシリアルを栽培しています。丁度この時期はシリアルの収穫期でした。刈り取った藁を四角く束ねたものが至る所に山積みとなっています。燃料と家畜の餌だと言っていました。

ほとんど何も無い場所を車は走っていきます。地平線が見え隠れするようです。途中の草原では、狭隘で起伏の多い場所ですが、ヤギと羊の放牧がおこなわれていました。所々に石でできた家が見えます。こんな所にも人が住み、生活していると思うと水や食料をどのように調達しているのか疑問と興味が湧いてきます。でも疑問は直ぐに解決しました、所々に水場があるのです。広い水場には色々な種類の果物を売っています。びっくりするほど豊富な種類と数です。水は驚くほど冷たく、大きなたらいに水を受けて果物を入れています。まさに天然の冷蔵庫代わりです。ガイドのムハンマドさんにこの果物はどこで採れるのか聞くと、山からという。山の場所は色々で、場所によって採れる果物に味の違いがあると言っていた。ガイドのムハンマドさんに何か聞くと何でも山からと答える。素直に受

け入れられない。

シャウエンの街は、山の斜面にへばり付く様に青い家が密集しています。



シャウエン遠景



街を巡る嘗ての城壁右上

嘗て街の周囲は城壁で囲まれていたそうですが、今は殆ど原型を留めていません。所々に嘗ての城壁の跡を忍ぶ程度です。

崖の下には大きな水場があります。豊富な水が絶え間なく流れ、高い樹木が茂り、ここでも果物を冷やしていました。

崖の上の高台には背の低い肉厚の熱帯植物が群生しています。崖の上と下では植生の環境が大きく変わっています。

民族衣装を着た女性が二人いました。ムハンマドさんは珍しいと言うので望遠で撮影しました。



大きな水場



山岳民族の衣装

シャウエンの街中には平地がありません。街の中は両目が青色に染まるような神秘的な青色一色です。



広場の中心にあるカスバ



シャウエン階段と子供達

ガイドのムハンマドさんは、スペインのアンダルシア地方からの移民が壁を青く塗ったのが始まり、と説明してくれた。が、真相は不明の様だ。

階段の脇に猫が気怠そうに寝ている、青い色が気持ちを落ち着かせるのか、近寄っても噛みつきそう

気配はない。

ここのレストランで働く人はアラビア語、ベルベル語は勿論、フランス語、英語、スペイン語を話す人が珍しくない。

道で遊んでいる地元の子供が私を見て、チノ!チノ!とスペイン語で喋ってくる。【chinol:中国人】癩に障るのでソイ ハポネス!【soy japones!日本人】だと言ったらハポネス、ハポネスと繰り返して行ってしまった。東洋人は皆中国人だと思っているのだろう。あまり良い気持ちはしない。

坂を下りて街の中心にある広場に出ると、黄色い建物がありました。カスバだと言う。表記は [casaba] と書いてある。カスバ、「カサバ」とも言うようだが、私には「酒場」と聞こえます。英語の「castle」と同じ意味だとムハンマドさんは言っていた。

カスバと言うと歌謡曲「カスバの女」のイメージから酒と苦界の女性のイメージが付きまといますが、実際には皆の様な所です。

帰路、車の後部座席に居てアクシデント発生。突然頭に痛みを感じ、直ぐに払うと黒い蜂。かなりの痛みです。ガイドのムハンマドさんに聞くと毒はないと言う。2時間位で痛みは治まるとも言っていた。刺された場所は腫んになっていて2時間たってもひく気配はありません。どうやら休憩している間車の窓を開けていたので、蜂が入り込んだようです。良く観察すると未だ数匹、車内にいます。家族が心配するので、蜂退治。幸い動きは緩慢なので、紙で包んで潰し敵を討ちました。ムハンマドさん達は、蜂如きは無関心です。

車内は暑いのですがクーラーを付けません。勿論車にクーラーは付いているが、暑さ慣れしている様だ。

ホテルに帰る前にカルフルに寄ってもらい、ビールとワインを購入します。

フェズの少し手前にメクネスがありますが、ここはワインの産地で赤・白ワインとも美味しいと聞いていました。カルフルで探すと、1本600円位です。ここがイスラムの国で有る事を考えると非常に安く感じます。

ホテルに戻って次に向かったのは地元のスーパーです。ここで氷を購入します。当然ここではアルコールは売っていません。氷でビールとワインを冷やし、待つこと暫し、頂く瞬間に幸せを感じます。温いシャワーも、役立たずのエアコンも許せる。小さな幸せが寛大な気持ちにさせる、これもお酒の力かな。

**6月14日【土】** 今日是一日フェズのメディナを散策です。ガイドを探しに公式ガイドの事務所に向かうが、あいにく土曜日で休みだ。がっかりしていると白い民族衣装を着た老人が寄って来て曰く、ガイドを探しているのかと聞く。胡散臭いと思っていると、IDカードを見せてこれが公式ガイドの証拠だと言う。値段を聞いてみるとそれほど高そうではない。午前・午後で400DH、日本円で4,400円位。時間に直すと

@700円程度。3人で協議の結果ガイドをお願いした。ガイドはアフメドさん、ここで55年ガイドをやっていると言っていた。流暢な英語を話す。太めの体に被っているエンジの帽子がモロッコらしい。

メディナの正面は青いタイル張り、裏側に行くと緑色のタイルが張ってある。青い色のタイルはフェズの色、緑の色は平和の色と説明していた。

この門を過ぎると物乞いが居ました。数多の視線に無言の非難を受け流し、頭を垂れ一日の始まりの祈りにも似た姿は、一瞬ではあるが慈悲の念を抱かせます。

メディナの中は活気があり、郷土料理に使うタジン鍋が、ここかしこに並んでいました。羊か山羊の肉が軒先にぶら下がって料理される順番を静かに待っています。



メディナの表門



祈りの老人

中に行くほど道は狭く、複雑な迷路のようになっています。ここを何事も無いように歩くアフメドさんはかなりの高齢ではあるが、足取りは軽やかだ。

モスクがいくつもあり、黒人【くろびと】用のモスク迄あります。建物が傾いで補強中の建物もあり、年月を感じさせます。県知事だった館の補修現場に入りました。イスラムは羨ましい限りの4人迄妻が持てます。かつての主も4人の妻を持ち、それぞれの妻に平等に庭を与えていたそうで、畑も4つありました。

立派な建物もあります。砂漠を通過して来た隊商たちで位の高い方が宿泊する館には、胡椒を計量する天秤がありました。かなり大きい物です。少し離れた場所には商品の奴隷を入れる部屋も残っており、歴史を大切に保存しています。



隊商の館



ミント・ティー

昼食はモロッコの伝統的な料理を摂りました、サラダが豪華で6種類もあります。辛くなく美味しいのですが、ビールが無いのが残念です。家内と娘がミント・ティーを注文すると、伝統的なやり方で眼の前で入れてくれました。サラダ6種類、ミント・ティー、3人前のタジン鍋、チップを入れて料金は3人で約600DH。

昼食後に向かったのは、皮の鞣しと染物屋。奥に見えるのは「鳩の糞」から作った白い鞣し用の石桶。ここだけはアルカリ性なので手袋をして作業していますが、他は人体に害はないとの事で直接素手にて作業していました。



奥の白い槽は鳩の糞



素手での染色作業

匂いが強烈でここに入る時はミントの葉を貰い、匂いを騙しながら見学です。望遠でこの作業場の遠方を撮影すると、ゴミの山です。生活の場、街中はやはりゴミがあります。

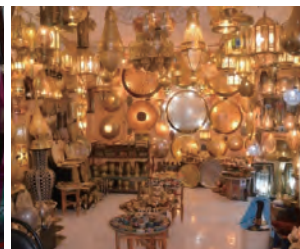
娘が革のスーツを購入しました、体形にぴったりの素敵なスーツです。家内もスリッパの様なバブーシュを購入予定です。国内にいた時はバブーシュの値段はいくら迄と決めていたようですが、ここでは品質が何とか、デザインが何とかと言いながら何足も買っています。負けさせることが生甲斐の家内は当然電卓をたたいて交渉です。何度もやり取りします。

ここでは売り子とオーナーと職域が分かれています。売り子は売るだけです。

売値近く迄行くと、売り子では判断が付きません。奥に行って相談したようですが、ほぼ家内の満足する金額で買う事が出来ました。その間私は、イライラする自分をじっと抑えていなくてはなりません。



砂漠の必需品ターバン



店の中・銅製品

甘食の様なパン焼きの風景、撮影でもお金が必要、でも彼らは写真を嫌がる。

民族衣装の布を作っている店でターバンを巻いてもらいました。

アラビア映画に出てくる様な3人組に変身です。

狭い路地では銅製品を作っていました。ここでは車は通れません、ロバは今でも現役です。

公共入浴施設「ハمام」があります、家内と娘は入ってみたいと言う。経験の為入ってみました。店の中には日本で昔に使っていた風呂桶の様な物がありました。勿論、デモンストレーション用です。



路地を進むロバ



ハمامの中のバスタブ



洗い場とマッサージ台

ハمامの天井は丸くドーム状になっています。フロントでタオルとパンツを渡されたが、ロッカーは家族一緒です。ここで着替えますが、心配はこのパンツ、ちゃんと洗ってあるだろうな!

ハمامの中に入るとかなり広い空間です。仕切りはありませんが、男女で場所

が違います。洗い場は、かなり高めの石作りでできています。その上に素っ裸に近い状態、貸パンツ一丁で上向きになり待っていました。

暫くすると太めの女性が入って来て、何やら言いますが勿論言葉は通じませ

ん。顔に表情がなく、短パンにTシャツ姿で湯をざぶざぶかけられ・・・本当は「湯をぶっかけられた!」が正解で豪快なかけっぶりです。

次に茶殻の様な黒い物を塗りたくられ、垢すりの様な真似事をされました。この女性はアラビア語しか通じない。手振り・身振りの意思表示しかできません。茶殻を塗りたくると女性は出て行ってしまいました。

家族の事も心配です、こんなところで何かあったら・・・素っ裸で何も出来ないし、言葉は通じないし・・・不安は募ります。

次第に増してくる不安。少し離れた所にいる家族に大声で話すと向こうも同じ状態らしい。暫くすると・・・長く感じられたが・・・女性が戻って来て、又湯をぶっかける。それで終い。

料金は意外と高い、勿論女性にもチップが必要、というより我々が見える所で待っている様です。3人なのでやはり少し見えを張ってチップを渡すと、湯をぶっかけていた時と全く違ったニコニコ顔になっていました。

アフメドさんの説明とこのオーナーの説明では、ハمامの料金はホテル迄のタクシー代が含まれているとの事。

出口まで案内してくれると言う若い衆が、迷路をくねくねと進んでやっと表に出たが、タクシーは自腹で払えと言う。しかも来る時のタクシーは7DHであったのが何と30DHよこせと言う。もう一度ハمامに戻って文句を言いたいところだが、何せ戻れない。タクシーを止めさせ交渉して20DHで帰る事にしたが、この若い衆はここまで案内したチップを払えと言う。怒りの顔でノーと言ったら渋々帰って行った。

ホテルに戻り鍵を受け取ると、昨日迄の部屋と違う。1階(グランドフロアの上階で2階)となっていた。昨日迄の2階の部屋よりかなり広いが、造りと配置は全く同じ。荷物が心配になったが、前の部屋にあったのと同じように、スーツケースの置いてあった場所から、クロークに入れてあった服の順番、靴の配置、歯磨きセットに至る迄、全く同じように配置されていた。私は毎日下着を洗濯していたが、パンツをベッドのサイドランプに掛けていた。これも全く同じようにサイドランプに掛けていたので3人で転げる様な大笑。

熱いシャワーが出るようになったし、部屋は広くなったし、少し報われたか。今日のメディナでの不快な出来事は、ビールを飲んでやっと留飲を下げました。

**6月15日【日】**今日は待望の砂漠で幕営の予定です。朝は同じく9時出発。

フェズの街を出ると途端に道路が簡素に、はっきり言えば悪路となります。

砂漠までは6時間程の道のりですが、途中イフレンを通過します。近づくに従い道路が綺麗になります。ガードレールも付いてくる、2車線でしかも街灯迄整備されています。緑が多く街は兎に角綺麗、空気が澄んで清涼感がある。



羊かライオンか石像



イフレン風景

この空気を吸わないと損だと言う感覚で、胸が痛くなるほど深呼吸しました。イフレンはモロッコのスイスと言われており、家屋もヨーロッパ風に変わります。何とも言えない素晴らしく環境の良い場所で、機会があれば又ここにきてみたい場所です。モロッコからヨーロッパに留学する学生は、この大学で勉強してから行くそうで、授業は全て英語で行われると言う。イフレンは通過する場所で滞在時間が短く残念でした。

イフレンを出ると緑は急に低木に代わり、次第に草に変わります、荒涼とした地平線が遠くに見えるだけの無味乾燥地帯。天に比翼の鳥なく、地に走獣無しとは良く言ったものだ。こんな場所を何時間も走ります。

昼食を取ったホテルの入り口の上に雀位の鳥が居ました、鳥もこんな所でしか生きられないのか不思議な感じです。

フロントを過ぎた水晶の大きなオブジェの奥がレストランとなっています。かなり広いレストランですが、ここに3人だけ。寂しい場所と思っていましたが、団体客が来て直ぐに一杯になりました。ここはビールがあったのですが、団体客が急に来て注文どころではありません。スペイン語、中国語、英語、フランス語が飛び交います。



レストランの中の様子

荒涼とした場所に突然現れるホテルですが、プールもあり女性が3人プールサイドで遊んでいました。薔薇も咲いています。ここは別天地です。

モロッコのアリゾナと言われている丘の様なものが見えてきました。何も無い大地です。



モロッコのアリゾナ



砂漠の駱駝

突然現れる土と石の建物、休憩所です。トイレは勿論有料、番人もいます。

夕刻砂漠に到着、ここで車を降り駱駝に乗り換えます。ベルベル人の駱駝使いがいて乗れと言っている様だが、この駱駝使いはベルベル語とアラビア語しか分からぬ。駱駝はキャメルクラッチと言う輪のようなもので前足を縛って、この輪を外さないと駱駝は立ち上がれません。

ガイドのムハンマドさんに砂漠に蠍はいないかと聞くと、そんなものは居る訳がないと言う顔をされて否定された。

駱駝使いはターバンを巻き民族衣装を纏った若い青年だが、古くからの伝統を維持する者が持つ一種の

威厳の様なものを感じさせます。



人瘤駱駝 背は高い

乾燥し切った砂漠だが所々に草が生えているが、とても砂地に根付く様な草ではない。砂漠の砂は皆同じと思っていたが、砂は堅く堆積した場所と柔らかく積もっている場所がある。駱駝は当然砂が踏んでも崩れない所を選んで歩く、それで真っ直ぐ歩かず、下ったり上ったりして歩いていく。

駱駝の脚はそれ程太くはないが、関節と蹄は大きい。立ち上がる時は急に立つ、座る時はドスンと座ってします。乗る時と降りる時は注意が必要だ。

一瘤駱駝で鞍は付いている。登りは鞍に付いた手摺につかまれば安定するが、下りは気を付けないと振り落とされそうになる。

駱駝から感染する中東呼吸器症候群（MERS）は知っていたが、駱駝の毛を触ってみる。毛は堅く縮んでいる、所々剥げがあり老駱駝なのかも知れない。

駱駝の行く先に黒く石の様な物が続いています、駱駝の糞です。ヘンゼルとグレーテルはパン屑を辿って家に戻ろうとしましたが、砂漠では駱駝の糞を辿って行けば人のいる場所に出ようだ。

駱駝に揺られる事40分位か、大テント村が見えてきました。正面は巨大テントです。このテントを中心に、中央から砂に敷かれた長い絨毯があります。左右は個別のテントです。



テント村の支配人



テント村の中央絨毯

巨大テントの右奥に給水塔、一番奥のテントにディーゼル発電機があります。

テント村に着くと、ベルベルの衣装を着た支配人らしい小太りの男が何人か？と聞いてくる。3人と答えると、いくつかのテントの中を見て、ここだと言う。結構適当な決め方だ。ここのテントは布製で涼しいが、他のテント村ではプラスチック製なので暑いと言って自慢げで

あった。ここで働く人は全てベルベル人です。テントに入って荷物を整理していると、サンセット!サンセット!と外で叫びながら各テントを回って行く。急いで夕日が見えそうな小高い砂丘に上がるが、3歩進むと2歩下がってしまう。やわらかい砂で上がり下がりしていると息が切れる。大変なエネルギーを使い、足の大腿部が痛くなる頃やっと丘の上に着く。ここから砂漠に沈む夕日を眺めるが、幻想的な景色だ。



砂漠に沈む夕日



夕食風景とメクネスワイン

夕方は風もなく寂寞の中、家族で話す内容は他愛もないが、幸せを感じる。

泊まったテントは広く4人分のベッドがあります。ビニールで仕切られた奥は洗面所、奥の右側はシャワーで温水が出ます、左がトイレで水洗式です。

ここでトイレを使うと、当然匂いはテントの中に籠ります。文明から逃れて空空寂寂とした砂漠に憧れたが、ここに換気扇を付ければ良いのに!などと変なところで文明を肯定してしまう。これを自己矛盾と言うか言い訳と言うか、所詮一度享受した文明は後戻り出来ぬと悟りました。

夕食は、持ち込んだメクネスのワインで乾杯です。テーブルの上の小さなランプが抜群の雰囲気です。料理とワインを盛り上げます。

夜はベルベル人による民族音楽の演奏会、最初は2人位で太鼓を叩いていたが、次第に奏者が増え、終には12人位まで増えました。深夜2時頃まで太鼓を叩いていた。残念ながら私には郷愁を感じることもなく、ただ無駄に煩い感じです。勿論この国の文化を否定している訳では無いが。



民族音楽演奏



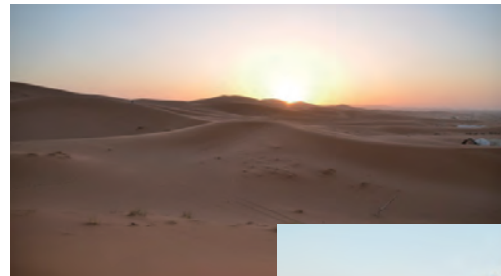
満月で星の瞬きは見えず

砂漠で満点の空に星の瞬きを見るつもりでした。が、今夜は月が煌々と輝く満月で星は見え、月の右側に明るい金星が見えただけです。

## 6月16日【月】

朝はサンライズ!サンライズ!という声が各テントを回って行きます。昨日の教訓から遠回りになるが、ゆっくり

と丘の上に上がります。朝は夕刻と違い、風が強く、丘の上は砂が勢いよく飛んで行きます。



砂漠の日の出



砂丘の朝、強風と流砂

隣に来た女性はロングスカートですが、風が強くスカートを容赦なく捲り上げます。朝日はアルジェリアの方から出て来ます。

砂が飛んできて手や顔に当たるとかなり痛い。カメラはビニール袋等で覆わないと機能しなくなる程強く飛んてくる。国内でガイドブックを読んでいた為、袋の用意はして来た。何枚かを撮影して直ぐ移動の準備を始める。

テントの傍にいた人に駱駝は何処か聞くと、あっちと指さします。行ってみると、昨日駱駝を降りた場所にきちんと座っていました。40~50分ほど乗ると砂漠の入り口に着きます。ここに来るとベルベル人の駱駝使いが、駱駝から降りろと言う。ムハンマドさん達の待つ宿に向かうようだがここからは歩きだ。何せ言葉が分からぬ。

何故駱駝に乗らないのか不思議に思っているが、仕方がなくただ付いていく。硬いアスファルトは駱駝の負担になるのだろうか、彼らには大切な動物なのは理解できるが。

昨日ムハンマドさん達と分かれた場所で立ち止まっていると、ベルベル人の駱駝使いはこちらに來いと手招きする。付いていくと、一軒の宿屋風の建物に入って行った。ここでやっとムハンマドさん達に会う事が出来た。



アトラスからの地下井戸



砂漠のオアシス

今日はこれからマラケシュの方に向かう、途中オアシス中を見る機会がありました。アトラスから引いた雪解

け水を利用した畑で、ナツメヤシが主な作物です。強烈な日差しでナツメヤシは太陽の光を浴びる必要がなく、背は低く幹を太くしている。黄土色の大地にオアシスの緑は安らぎを与えてくれる。

オアシスは荒涼した大地には贅沢の極みで、しかもアトラスの水は冷たい。

地下井戸があり、水は絶え間なく流れています。見渡せば砂漠の中にも所々井戸や点検用の穴があります。覗くと井戸はかなり深い様です。

砂漠の休憩所の建物は、粘土に藁を混ぜて作っている様なものが多い。外には駱駝が繋いであった。



休憩所 泥の家

トラ渓谷

写真を撮ろうと近づくと、ムハンマドさんから近づき過ぎると駱駝は噛みつくと言っていた。葉っぱを食べていたが、大きな歯だ。

砂漠からトラ渓谷へ、崖上にヤギが居ると言うが信じられない光景だ。

この川にはキャンプに来ている家族も沢山いました、よく見ると小さな魚が居ます。ちょっと不思議な感覚です。

昼食のレストランで、入り口を見るとのベルベル文字が書いてあります。

室内にもベルベルのデザイン画があります、力強く印象的です。



レストラン入り口

内部のベルベルのデザイン

道中、娘が私の事をパパ・パパと言うので、運転手のムハンマドさんまで私の事をパパと言う始末、本当に陽気な人です。

バラ祭りを行うと言う街を通りました。街はそれ程大きくはありませんが、年に一度モロッコ中の方がこのバラ祭りに来ると言っていました。運転手のムハンマドさ

んとガイドのムハンマドさんはこの街でローズオイルや化粧品など沢山購入していました。本当に山のように買っています。ローズオイルが買いたいと言う我々を連れて行ったお土産屋は、見向きもしません。店の中にも入って来ませんでした。お土産屋の料金設定の仕組みを垣間見た気がします。

夕刻、疲れが出る頃、今夜の宿泊地アイト・ベン・ハドウの近くのホテルに到着しました。途中モロッコの映画村を通りましたが、岡の上から眺めるとかなり広く、映画アラビアのロレンスの撮影場所です。大きな建物はスタジオか、いくつか並んでいます。



モロッコの撮影村



アイト・ベン・ハドウ

ホテルのベッドにはタオルで織った鶴？が置いてありました。ここから世界遺産アイト・ベン・ハドウへは、歩いて行けます。ここも映画の舞台になった場所です。

### 6月17日【火】

朝食後アイト・ベン・ハドウへ歩いていきます。ここは9人の人が最初に入植して砦を築き、作物を作って住み着いたそう。現在も数家族が暮らしている様だが、橋を渡らないとここにはたどり着けない。今の時期は水嵩が低い。



頂上付近から望遠

家々の壁は、泥で出来ています。しかもドアには鍵が掛かっているが、四方柱は泥だ。水を流せばすぐに壊れそうです。それでもしっかりとかなり派手なカ



ギをかけています。ガイドのムハンマドさんは「MUD」は日本語で何と言うかと聞いて来た。「DORO」と発音して聞かせると、直ぐにスマホにMEMOしていた。勉強家なのだ。

今、は渇水期、家は土と砂利で出来ているが劣化で所々壊れている。雨が降れば泥が流れてしまいそうだ。見上げると、砦の四方には物見がありここから監視していたそうだ。アイト・ベン・ハドウには、数店のお土産屋があるだけで今は閑散としている。1時間程度の散策で一回り出来る程度の広さだ。

散策の後、最終地マラケシュに向かいます。



マラケシュ 赤い街

マラケシュは赤い街です。建物の色は、赤茶色に建設で街のどこからでも見えるように設計したそうです。

ムハンマドさん達とはここでお別れです、彼らは既にほかの予約が入っているようだ。

**6月18日・19日**  
**【水】・【木】**

ジャマ・エル・フナ広場

を散策。広場はかなり広く観光用の馬車が50~60機程待機していた。ここには蛇使いや屋台が並び、大道芸人もいます。私は蛇が嫌いで近づきませんが、パラソルの下で蛇使いが笛を吹くとコブラが何匹も頭を出していました。二の腕程ある蛇もいますが、パラソルから逃げ出しません。蛇は臭覚に優れ、一度嗅いだ匂いは識別すると言われている。ご主人様と飯にありつける場所をわきまえているのだろう。広場の奥は巨大なスークがありました。

ここではガイドを付けずにスークの中を冒険してみました。スークは売り物別に軒を並べています。ここでも、値段を決めるオーナーと売り子は別々にいて、客との交渉は売り子がしています。家内は再度バブーシュを買いたいと言う。先に買ったばかりだ、値については把握している。ここでも長いあいだ交渉するが値段が合わず断ると、暫くして品物を持って追いかけてきます。



クトピア



ジャマ・エル・フナ広場



観光用馬車

オーナーと相談したのですが、でも値段はそれほど下がっていない。家内は断念したようだ。値引きしている家内を見ていると、生き生きとしている。値引き交渉では相手が怒る寸前で本当の値段が分かる。どうやら家内はこの勘所を持っているようだ。

スークの中に娘が購入したものと同じスーツがありました。娘は値段が知りたいので幾らか聞くと、それより兎に角着てみろと言う。同じものを持っているから値段だけ知りたいと言う娘に、まずは着てみるというばかり。埒が明かないし怪しい雰囲気があるので断るが、かなりしつこかった。

ここはジャマ・エル・フナ広場以外には特段行って見たい場所はないので、近くにあるマジョレル庭園に行きました。ジャック・マジョレルが40年かけて作り上げた庭園。彼の死後は荒果てっていたが、この地を好んだデザイナーのイヴ・サン・ローランが買い取り修復し、現在は公開されている。園内は植物に溢れ、別世界の雰囲気だが入園料は意外と高い。



マジョレル庭園

珍道中も終わりが直ぐにやってきました、ホテルで荷造りしていると旅愁が起ります。こんな気持ちしが又旅に誘うのかも知れません。離れて暮らす娘は、来年も又、一緒に旅に行こうと言っている。今度はどんな旅になるか今から楽しみです。

## 20周年記念式典及び懇親会のご案内

2020年1月吉日  
NPO 法人南国暮らしの会  
理事長 阿部滋敏

### 南国暮らしの会 20周年記念式典及び懇親会のご案内

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様におかれましてもご健勝でお過ごしのことと思います。今年は東京オリンピックも開催され楽しく充実した年にしたいと思います。

又、お蔭様で南国暮らしの会は会員の皆様のご協力で **20周年**を迎える事ができました。つきましては、会員の皆様との親睦の一環として下記の要領で記念式典及び懇親会を開催致します。是非ともご家族の方も一緒にご参加頂ければ幸いです。

#### 記

日時：2020年5月24日（日） 12時～15時  
場所：相鉄グランドフレッサ 品川シーサイド 海の間  
住所：品川区東品川4-12-8 品川シーサイドイーストタワー16F  
[TEL:03-6716-1902](tel:03-6716-1902)

会費：お一人4,000円 飲み放題です。

参考：場所はりんかい線品川シーサイド駅に隣接（大崎から2個目の駅約7分）

以上

- 参考1. 同ホテルは2020年度南国暮らしの会の総会と同じ場所です。
2. 会費が同じで配偶者も参加できます。
  3. **出欠のハガキは3月末まで**にお願い致します。又、南国MLにも掲載しますので海外にステイ中の方は南国BBSでもOKです。
  4. ホテルの収容人数は最大80名のため原則先着順とさせていただきます。

**出欠ハガキは今号に同封しております。**

# 総務部からのお知らせ

## 2019年度(22期) 役員 業務分担表

2019 / 11 / 15

◆ 理事業務分担

凡例：◎部会長 ○副部会長

南国暮らしの会

部門担当	担当理事	業務内容
I 理事長	1607 阿部 滋敏	・会総括代表・総会、臨時総会招集・現状情報収集・資産管理 ・理事会、役員会招集・理事会議長・官庁関係資料の提出
II 副理事長	1763 小西隆司	・理事長の補佐 ・各部会総括
総務部会 (事務局)	◎ 1763 小西 隆司 ○ 1717 丸山 俊江 1225 高橋 眞治 1537 鈴木 元恵	・定款(会則)等の改廃・日常運営案の作成・予算案の作成・官庁関係資料の作成 ・総会、例会、懇親会、催しの等企画及び実施、同会費徴収、テーマ策定 ・会場設定、運営、記録、発表、総会議事録作成・各委員会のまとめ及び確認 ・理事(役員) 会テーマ策定資料・理事(役員)会招集実施(会場設定、運営管理、記録、発表) ・理事(役員)会議議事録作成・税務関係(法人税、資産税管理等) ・「南の会」必携編集作成
(経理)	○ 1657 久保田清文	・入会金、年会費徴収 ・一般収支・金銭出納記録 ・決算の事務 ・会費納入票回送
(ネット) (HP)	○ 1601 高島 恵 1712 定國 和 996 歌田晃一	・南国掲示板(BBS)運営 ・会員メールアドレスの管理 ・HP運営・更新
支部推進部会	◎ 1601 高島 恵 ○ 1682 守田 章	・支部統括 ・支部活動支援
会報部会	◎ 1575 吉田 博 ○ 470 細田 良子 1640 川野 俊次	・会報等の原稿収集、編集、整理、校正、印刷、製本、発送 ・会員への情報提供及び会員からの情報収集 ・年1回(春季号)発行
広報部会	◎ 1712 定國 和 ○ 1717 丸山 俊江 1537 鈴木 元恵	・「南の会」の対外的広報活動・マスコミ取材窓口(ロングステイ財団窓口) ・他機関への投稿・新聞、雑誌等の関係情報収集
会員部会	◎ 1682 守田 章 ○ 1640 川野 俊次 1225 高橋 眞治	・会員入退会・会費等の納入チェック・問合せ者の資料等の作成及び発送 ・会員名簿作成・問合せ向け「南の会」案内書編集作成 ・会員からの情報収集・会員証発行 ・会報等の送付先の掌握及び宛先シール作成(会報部会と連携)
監事	732 馬場 章介 1068 山科 滋雄	・理事の業務執行状況の監査・この法人の財産の監査 ・定款に違反する重大な事実が発見されたら総会を招集し報告又は所轄庁に報告 ・理事会業務執行に対する会員苦情等の精査
相談役	434 大野悦子	・会運営のキャリアを活かした理事長及び理事への支援

理事、監事の業務は本分担表に記載なき事項でも、本会定款に記載ある事項はこれを優先する。

## 友好団体紹介コーナー

★一般財団法人ロングステイ財団  
http://www.longstay.or.jp

★チェンマイロングステイライフの会 (CLL クラブ)  
http://cll.thaijp.net/

★ワールドステイクラブ (WSC)  
http://homepage3.nifty.com/worldstayclub/

★THE JAPAN CLUB OF KUALA LUMPURKL  
(クアラルンプール) 日本人会  
http://www.jckl.org.my/

★北ルソン日本人会 (JANL)  
http://janl.exblog.jp

## 南国暮らしの会 支部一覧

2019年12月現在

支部名	会員番号	支部長名	e-mail アドレス
北海道支部	1285	桂 裕章	hiro-katz1743@nifty.com
東北支部	1027	佐藤 周司	shujisato1947@yahoo.co.jp
関東甲信越支部	1591	肥後 信彦	nob3914@yahoo.co.jp
東海支部	1674	神谷 宜門	yutomo@sd5.so-net.ne.jp
関西支部	1608	森川 建	t.moriken72@gmail.com
九州支部	581	朝永 清寿	ktomo581@yahoo.co.jp
チェンマイ支部	239	伊藤 寛	kan_itoh_9@hotmail.com
バンコク支部	—		
ペナン支部	813	石渡 清志	ishil951@jg8.so-net.ne.jp
クアラルンプール支部	1831	西田 富男	nishida@pollars.co.jp
マニラ支部	—		
セブ支部	1623	田口 秀男	guccideo@yahoo.co.jp
バギオ・パンガシナン支部	227	斎木 一	saikihajime@hotmail.com
ダバオ支部	1261	藤本 晴久	katorudawann@yahoo.co.jp
ハワイ支部	1278	外池 一子	k_tonoike@hotmail.com
ゴールドコースト支部	—		

## 編集後記

今このたび「南国暮らしの会 20周年の特別号」を発行する運びとなりました。

この「南国暮らしの会」20周年にあたりタイ国政府観光庁、フィリピン観光省、マレーシア政府観光局の各国からお祝いの挨拶文を頂きまして厚く感謝申し上げます。各支部長様からも原稿を頂きました。

編集では、各支部へ原稿依頼して書いて頂いたり、出来るだけ新しい情報を会報を通じて伝えたくて海外へ行った方々への原稿依頼など、原稿集めに毎日PCと向き合っていました。

私ごとですが、13年にこの会に入り直ぐに会報部員を任される事になり、今また20周年の会報誌を編集する事にこの会へ不思議な繋がりを覚えます。

最後に、20周年特別委員会が発行するこの特別号を編集するにあたりご協力くださった各支部長並びにOB・OGの方々すべての皆様に感謝申し上げます。

会報誌連絡アドレス：

kaihou.henshu.iinkai@gmail.com

編集委員 No.470 細田良子  
No.1575 吉田 博



## 2020年度会費納入のご案内

2020年度の継続会費納入をご案内します。

**継続年会費：5,000円 納入期限：2020年3月31日(火)**

○本会の2020年度は2020年4月1日より1年間です。会則により、会費は年度会費制で途中入会者に対する月割り計算はいたしておりません。2019年度に新規加入の方も、加入時期にかかわらず2020年度会費を全額納入してください。

○**郵便振替、ATM他をご利用の方は、**

下記 **ゆうちょ銀行**口座への振込をお願いします。

ゆうちょ銀行 金融機関コード：9900

店番：019 店名：〇一九店（ゼロイチキョウ店）

預金種目：**当座**（「普通」ではありませんのでご注意願います。）

口座番号：0024682

受取人名（カナ氏名）：ミナミノカイ

（振込支店名の検索は、画面「あいうえお」一覧の「ゼ」または「セ」から〇一九店を選んでください。振込画面は銀行により異なることがあります。）

（お願い）銀行振込に際しては、**振込人氏名の先頭に会員番号を追加記入**してください。

○**窓口で払込の方は、**

**同封の右記払込取扱票（郵便振替用紙）**を使ってお振り込みください。（ATMでも利用可能です）

振込料金は各自ご負担願います。

郵便振替口座番号：0 - 0170 - 7 - 24682

加入者名：「南の会」

（お願い）郵便振替の払込取扱票の「ご依頼人」欄に郵便番号、住所、氏名、電話番号を**楷書**で明確にご記入ください。また、**通信欄に会員番号**も忘れずに記入してください。

同封の払込取扱票見本

○**会費納入と会員資格、総会表決権の取扱について**

- ・上記の納入期限内に継続会費を納入された方は、2020年度会員として総会表決権を有します。
- ・期日までに会費未納の場合は、当年度会員資格が停止され、総会での表決権を始めとする会員としての権利は受けられません（会報も送られません）。
- ・期日までに会費未納入の方へは、一度納入を督促致します。9月30日までに未納の場合は、10月1日時点で自動的に退会扱いとなり、会員の資格は喪失します。
- ・9月30日までに会費を納入しますと会員資格が復活します（入会金は不要）。
- ・新規会員で会費を2020年度として納入された方は、4月1日からの会員資格となりますので、2020年度総会での表決権はありません。

○**やむを得ず会費納入が遅れる方へ**

海外滞在中などで期日までに振込が困難な方は、下記アドレスへ件名を「会費納入遅延」としてご連絡ください。 **keiri.iinkai@gmail.com**

納入遅延の連絡を条件に特例として会報春季号をお送りします。連絡が無い場合は会員名簿からの削除を行います。

ただし、総会議決権については規定通り失効といたします。

## 「南国暮らしの会」から「自己責任の徹底！」

南国暮らしの会は南国暮らしの情報提供・交換・親睦の場です。これらを基にした集会・行事・旅行、或いは不動産の購入などについて、個々人の自己責任であることを肝に銘じて判断し行動してください。すべての判断・決定は自己責任です！

(参照：「南国暮らしの会」細則第10条【自己責任の原則】)

### 【連絡先一覧】

- (1) 会報に関するお問い合わせ [kaihou.henshu.iinkai@gmail.com](mailto:kaihou.henshu.iinkai@gmail.com)
  - (2) メールアドレスの変更 [mail.iinkai@gmail.com](mailto:mail.iinkai@gmail.com)
  - (3) 会員関係（住所変更など） [kaiin.bukai@gmail.com](mailto:kaiin.bukai@gmail.com)
  - (4) 経理関係（会費、名刺ロゴマークなど） [keiri.iinkai@gmail.com](mailto:keiri.iinkai@gmail.com)
  - (5) その他一般 [home@minaminokai.com](mailto:home@minaminokai.com)
- (メールには要件の他に会員番号、氏名、ご自分のメールアドレスを明記して下さい。)

### 会報原稿、写真募集期間 年間予定

**会報春季号** 2月1日から3月10日迄 会報発行予定日 2020年5月13日  
原稿募集初日、ML、BBSにて会報担当者名、送信先メールアドレスをご案内致します。

### 【編集委員】

No.1575 吉田 博

No.470 細田 良子

No.434 大野 悦子

記事の無断転載・複製を禁じます。

発行者 特定非営利活動法人（NPO法人）

「南国暮らしの会」

©minaminokai

理事長 阿部 滋敏

<http://www.minaminokai.com/>

E-mail: [info@minaminokai.com](mailto:info@minaminokai.com)

南国暮らしの会は令和元年にNPO 認証 20周年を迎えます！

貴方はこれからの長い人生をどのように暮らしますか。  
自由気ままに、誰にも気兼ねなく暮らす。  
寒いときは暖かい国へ、季節が良くなったらまた日本へ。  
移住も考える、夢物語だろうか……。そんなことはありません。

でも、行動を起こそうにも何も分からない。  
同じ仲間がいればもっと楽しいだろうに……。  
情報交換、仲間作り、生きがいを求める場が  
NPO法人「南国暮らしの会」です。

一人で参加して話す事ができるだろうか…。  
心配いりません。  
参加したその日から貴方は仲間です。



ロングステイと旅を楽しむ会 NPO法人

## 南国暮らしの会

【目的】自分の憧れの地（それが自分の南国）を見つけ、ロングステイや旅を楽しむ。

【会員数】約1,000名（家族会員を含む。2019年5月現在）



### 【支部】

国内 6支部：北海道、東北、関東甲信越、東海、関西、九州  
海外 7支部：ハワイ、チェンマイ、ペナン、クアラルンプール、  
セブ、ダバオ、バギオ・バンガシナン

### 【主な活動】

- ・年1回の会報発行(冊子)及び電子ニュース(随時)による情報共有
- ・会員専用の電子メール(ML)や電子掲示板(BBS)による最新情報交換
- ・定期的に情報交換会、講演会、懇親会等を開き、仲間作りや懇親を深める
- ・ゴルフ、テニス、パソコン教室、そば打ち、クルージング等の同好会活動
- ・仲間で誘い合って、海外や国内旅行に行く。
- ・海外ではロングステイヤーによる支部を中心に活動



例① チェンマイ支部では、サロン会、婦人中心の会食会、ゴルフ、卓球、旅行等を実施。冬の時期には100名を超す会員が訪れます。

例② ハワイ支部では、月日を決め日本より現地集合でサロン会やゴルフ等を実施



●お申込み・お問合せ [info@minaminokai.com](mailto:info@minaminokai.com) ☎090-5505-8984

●南国暮らしの会HP <http://www.minaminokai.com>